



特定化学物質無配合 2成分形ウレタン塗膜防水材

# コスミックPRO12・ゼロ

防水・防湿・防汚

免責事項：シーカ製品の施工および使用に関する推奨その他の情報は、当社の現時点での知識および経験に従ったものであり、通常の条件下で当社の推奨に従い適切に保管・処理・施工されることを前提としております。実際には、材料・接着面・現場の条件がそれぞれ異なるため、ここに記載されている情報、書面による推奨その他のアドバイスは、商品性や特定目的への適合性について保証するものではなく、また法的関係に基づく責任を生じさせるものではありません。ユーザーは、シーカ製品がユーザーの意図する施工方法および目的に適しているかどうかを、必ず事前に確認してください。特に、施工、施工管理及び施工に関する報告書の作成はユーザーの責任において行うものであることにご留意ください。当社は、第三者の財産権を尊重し、製品の特性を変更する権利を有します。すべての注文は、当社の最新の販売・納品条件に従って受注します。ユーザーは常に、使用する製品のプロダクトデータシート及び実施する施工方法についての施工要領の最新版をご参照ください。プロダクトデータシート及び実施する施工方法についての施工要領の最新版は、ご請求いただければ当社がご提供いたします。

2023年4月1日よりシーカグループの株式会社ダイフレックスは日本シーカ株式会社に統合され、新たに**シーカ・ジャパン株式会社**としてスタートいたしました。

製品・工法に関するお問い合わせは  
ホームページのお問い合わせフォームよりお願い申し上げます。  
<https://jpn.sika.com/ja/system/contact-us.html#construction>



2026年 4月版  
(\*26.4月現在) 26.04.500 SJ



より高い安全と

安心を目指して

特定化学物質無配合 2成分形ウレタン塗膜防水材料  
**コスミックPRO12・ゼロ**



JIS A 6021 屋根用ウレタンゴム系  
高伸長形 認証品

シーカ・ジャパン株式会社の代表的な防水材料「コスミックPRO12・ゼロ」は建物や用途、施工者や周辺環境などの様々なニーズやシーンに対して多彩なバリエーションでお応えする「2成分形ウレタン塗膜防水材料」です。お客様からのご要望に対し、安全・安心と建物の価値向上をご提供いたします。

コスミックPRO12・ゼロ 工法一覧

工法分類	使用するマット	補強布有無	平均塗膜厚 (mm)	仕様記号	
平場	CA マット G	-	2.0	PGG-20 ゼロ	
			3.0	PGG-30 ゼロ	
	CA マット SB	-	2.0	PBG-20 ゼロ	
			3.0	PBG-30 ゼロ	
機械的固定工法	CA マット G	-	3.0	PCG-30 ゼロ	
	CA マット SB 機械固定用	-	3.0	PBG-30 ゼロ 機械的固定	
密着工法	-	-	2.0	PSG-20 ゼロ	
			メッシュ (補強布)	2.0	PSG-20C ゼロ
			-	3.0	PSG-30 ゼロ
			メッシュ (補強布)	3.0	PSG-30C ゼロ
立上り	-	-	2.0	PV-20 ゼロ	
			メッシュ (補強布)	2.0	PV-20C ゼロ
公共建築工事標準仕様	CA マット G	-	3.0	PGX-1 ゼロ	
			CA マット SB	-	3.0
	X-2 (平場)	-	メッシュ (補強布)	3.0	PX-2 ゼロ
	X-2 (立上り)	-	メッシュ (補強布)	2.0	PVX-2 ゼロ
UR都市機構保全工事共通仕様	脱気絶縁複合防水 (平場)	自着シート	-	3.0	PJUR-30
	脱気絶縁複合防水 (庇、架台天端及び立上り等)	-	メッシュ (補強布)	2.5	PVUR-25C
	脱気絶縁複合防水 2回目修繕 (平場)	-	メッシュ (補強布)	3.0	PSUR-30C
	脱気絶縁複合防水 2回目修繕 (庇、架台天端及び立上り等)	-	メッシュ (補強布)	2.0	PVUR-20C
	バルコニー等床防水 (平場)	-	-	2.0	PSUR-20
	バルコニー等床防水 (立上り)	-	-	2.0	PVUR-20
	バルコニー等床防水 2回目修繕 (平場)	-	-	1.5	PSUR-15
	バルコニー等床防水 2回目修繕 (立上り)	-	-	1.5	PVUR-15

INDEX

環境性能について	5
施工部位	8
■ 屋上	9
■ ベランダ	13
■ 開放廊下・階段室	14
防水工法	16
■ 通気緩衝工法 CA マット G	17
CA マット SB	18
■ 機械的固定工法 CA マット G	19
CA マット SB 機械固定用	20
■ 密着工法	21
■ 共通立上り工法	22
■ 公共建築工事標準仕様	23
■ UR 都市機構保全工事共通仕様	25
■ 施工条件と注意事項	27
資料	32
■ 納まり図	33
■ 使用上の注意事項	37
■ メンテナンス/保証	38
■ 消防法関連	39
製品情報	42
■ ウレタン塗膜防水材料	43
■ プライマー	45
■ トップコート	49
■ トップコート関連製品	51
■ 通気緩衝シート	53
■ テープ	55
■ メッシュ・クロス/金物/その他	56
■ シーリング材	57
■ 改修ドレン	58
■ 脱気装置	60
■ 下地処理材	61
■ 製品一覧	63

# 環境性能について

## 特定化学物質について

化学物質は現代社会において多くの役割を担っており、無くてはならない存在となっています。しかし、一方で人や環境に対して有害なものもあり、製造・使用に当たっては様々な管理が必要とされます。経済産業省のホームページでは、化学物質の管理の必要性について、以下のように記されています。

化学物質には多くの優れた機能があるため、産業分野のみならず日常生活の様々な場面で利用されています。このように化学物質は社会にとって有益なものです。中には人や環境(動物やオゾン層等)にとって有害なものも存在します。そのような化学物質については、より安全な物質への転換や人・環境が有害な化学物質にさらされる量(暴露量)を少なくすることで、人や環境が害を受ける可能性(リスク)を下げることが可能になります。したがって、化学物質を安全に利用していくためには、個々の化学物質の有害性と暴露量に基づく科学的なリスク評価を行い、その評価結果に応じて適切に管理(製造・輸入の制限、使用・保管方法の適正化、環境中への排出抑制、有害性に関する情報の適切な伝達等)していくことが必要になります。

## このような考えから、化学物質に関する法規制等が様々な場面で設けられています。

化学物質管理促進法	労働安全衛生法	化審法	消防法
(PRTR制度、SDS制度)	特定化学物質障害予防規則 有機溶剤中毒予防規則 etc	化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律	各種規制

### これらを含め化学物質に関わる法律は、約25種類あります。

防水材についても、含有する物質によっては規制の対象となります。

ウレタン塗膜防水材の場合、一般的なウレタン塗膜防水材に配合されている

- ① TDI (トリレンジイソシアネート)
- ② MOCA 又は MBOCA (3,3'-ジクロロ-4,4'-ジアミノジフェニルメタン)

これらをその重量の1パーセントを超えて含有する材料を工事に使用する場合、

工事中の規制として労働安全衛生法 特定化学物質障害予防規則により、防水工事業者には下記の責務が発生します。

### ■ 特定化学物質障害予防規則

主な内容(下記は、特定化学物質障害予防規則より抜粋、要約、補足したものです。)

立ち入り禁止措置	事業者は関係者以外が立ち入ることを禁止し、且つその旨を見易い場所に表示しなければならない。
保護具	事業者は、特定化学物質を製造し、又は取り扱う作業場には、当該物質のガス、蒸気又は粉じんを吸入することによる労働者の健康障害を予防するため必要な呼吸用保護具を備えなければならない。保護眼鏡並びに不透性の保護衣、保護手袋及び保護長靴を使用しなければならない。
作業主任者の選任	事業者は特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者技能講習を修了した者のうちから、特定化学物質作業主任者を選任しなければならない。 (作業方法の決定、労働者を指揮することとあり、作業主任の現場常駐を求められる場合があります)
掲示	取り扱う作業場には、特別管理物質の名称、人体に及ぼす作用、取扱い上の注意事項などを労働者が見やすい箇所に掲示しなければならない。(ウレタン塗膜防水材では前述②MOCAが該当)
作業の記録	事業者は、特別管理物質を製造し、又は取り扱う作業場において常時作業に従事する労働者について、一月を超えない期間ごとに記録し、これを三十年間保存するものとする。 (ウレタン塗膜防水材では前述②MOCAが該当)
健康診断	取り扱う作業に従事する労働者に雇入れ時、配置換え時の健康診断実施、以後定期的に実施し、健診結果は前述①TDIは5年間、②MOCAは30年間保存する。

### コスミックPRO12・ゼロの環境対応工法は、特定化学物質を含んでいません。

溶剤系の材料を使用した場合、一部屋内工事においては特定化学物質障害予防規則の対象となります。

## シックハウス症候群を引き起こす原因とされる物質を含みません。

シックハウス症候群とは、建築工事に使用された建材や内装材が含有する化学物質によって室内空気が汚染され、頭痛や吐き気などを引き起こす症状の総称です。

- ・厚生労働省は平成14年より、13の有害物質の濃度指針値を定めています。令和7年1月よりエチルベンゼンの指針値が改定されました。
- ・文部科学省は平成21年4月より、学校における環境衛生に係る事項について、児童生徒等及び職員の健康を保護する上で維持されることが望ましい基準「学校環境衛生基準」(シックスクール対策)に、教室等の空気中のホルムアルデヒド等、化学物質検査について定めています。令和3年4月より、キシレン基準値が改定されました。
- ・国土交通省は平成15年7月より、建築基準法を改正しホルムアルデヒドとクロルピリホスが規制対象物質となっています。

### 環境対応工法では、すべての材料がこれらの物質を含んでいません。

各省庁の規制状況 単位:  $\mu\text{g}/\text{m}^3$

所轄省庁法令の名称	厚生労働省	国土交通省	文部科学省
	室内空気汚染に関するガイドライン	改正建築基準法	学校環境衛生の基準
ホルムアルデヒド	100	放散速度で規定	100以下
トルエン	260	—	260以下
キシレン	200	—	200以下
パラジクロロベンゼン	240	—	240以下
エチルベンゼン	370	—	3800以下
スチレン	220	—	220以下
クロルピリホス	1、小児0.1	使用禁止	—
テトラデカン	330	—	—
ダイアジノン	0.29	—	—
フェノブカルブ	33	—	—
アセトアルデヒド	48	—	—
フタル酸ジ-n-ブチル	17	—	—
フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	100	—	—

## トルエン、キシレンを配合していない脱TXタイプです。

防水工事に発生する臭気には「防水材自体の臭い」と「防水材に含まれている溶剤の臭気」とがあります。「防水材自体の臭い」を取り除くことは困難です。一方、「防水材に含まれている溶剤の臭気」は一般的に溶剤臭と呼ばれ、トルエンやキシレン等の刺激臭の強い溶剤が原因であり、この溶剤を取り除く事が出来れば、工事現場の周辺にまで強い臭気が広がる様な作業環境が改善される事になります。

シーカ・ジャパン株式会社は長年の研究と努力により、これらのトルエンやキシレン等の溶剤を防水材から取り除く事が出来ました。

### 環境対応工法では、すべての材料が脱TXタイプです。

環境対応工法とは、製品情報P.45~P.52に掲載のうち 弱溶剤系 水系 のいずれかのマークのついた製品と組み合わせた場合を示します。

## コスミックPRO12・ゼロの工法で用いられるすべての材料はF☆☆☆☆を取得しています。

シックハウス症候群への対応として平成15年7月1日に建築基準法が改正され、第28条の規定に基づき「居室の内装仕上げ」に対して建築材料の使用制限が定められました。

規制対象物質として第20条の4にクロルピリホス（主な用途：白蟻駆除剤）の使用が禁止されるほかホルムアルデヒドは放散速度により4段階の基準が定められています。

### ホルムアルデヒド発散建材の分類

ホルムアルデヒド発散建築材料は、室温28℃、相対湿度50%時のホルムアルデヒドの発散速度により、4種類に分類され、内装仕上げとしての使用が制限されています。

建築材料の区分	表示記号	ホルムアルデヒドの発散速度	使用の制限
建築基準法の規制対象外	F☆☆☆☆	0.005mg/(m <sup>3</sup> ・h)以下	使用制限なし
第三種ホルムアルデヒド発散建材	F☆☆☆	0.005～0.020mg/(m <sup>3</sup> ・h)	使用面積が制限される
第二種ホルムアルデヒド発散建材	F☆☆	0.020～0.120mg/(m <sup>3</sup> ・h)	
第一種ホルムアルデヒド発散建材	表示なし	0.120mg/(m <sup>3</sup> ・h)超	使用禁止

### ■ F☆☆☆☆取得製品一覧表

#### ウレタン塗膜防水材

建築材料の区分	等級区分	登録番号	備考
コスミックPRO12・ゼロ	F☆☆☆☆	NUK-F16934	特定化学物質無配合2成分形ウレタン塗膜防水材（MDS使用不可）
コスミックPRO・ゼロ立上り用	F☆☆☆☆	NUK-F16935	特定化学物質無配合2成分形ウレタン塗膜防水材（MDS使用不可）
コスミックPRO・ゼロ中粘度タイプ	F☆☆☆☆	NUK-F17986	特定化学物質無配合2成分形ウレタン塗膜防水材（MDS使用不可）

#### プライマー・ボンド・トップコート

建築材料の区分	等級区分	登録番号	備考
コスミック・プライマーU	F☆☆☆☆	NUK-F10557	1成分形ウレタン樹脂プライマー（弱溶剤系）
コスミック・プライマーE	F☆☆☆☆	NUK-F09440	1成分形ウレタン樹脂プライマー（弱溶剤系）
コスミック・エコプライマー	F☆☆☆☆	NUK-F08314	2成分形エポキシ樹脂プライマー（水系）
コスミック・プライマーP	F☆☆☆☆	NUK-F06086	1成分形ウレタン樹脂プライマー（溶剤系）
コスミック・プライマーEP	F☆☆☆☆	申請中	2成分形エポキシ樹脂プライマー（溶剤系）
コスミック・プライマー200	F☆☆☆☆	NUK-F10588	2成分形ウレタン樹脂プライマー（溶剤系）
コスミック・プライマー300	F☆☆☆☆	NUK-F10591	1成分形ウレタン樹脂プライマー（溶剤系）
FUプライマー	F☆☆☆☆	NUK-F17998	2成分形ウレタンポリエステル樹脂プライマー（溶剤系）
ダイナベース	F☆☆☆☆	NUK-F17999	1成分形アスファルト系下地活性剤
W-1	F☆☆☆☆	NUK-F10592	2成分形エポキシ樹脂プライマー（溶剤系）
DSトップ・ゼロ	F☆☆☆☆	NUK-F12688	2成分形アクリルウレタン樹脂トップコート（弱溶剤系）
ASトップ・ゼロ	F☆☆☆☆	NUK-F12706	2成分形アクリルシリコン樹脂トップコート（弱溶剤系）
フッ素スーパートップ・ゼロ	F☆☆☆☆	NUK-F12707	2成分形フッ素樹脂トップコート（弱溶剤系）
ACトップアクア	申請中	NUK-F17980	2成分形アクリルウレタン樹脂トップコート（水系）
SQトップ・ゼロ	F☆☆☆☆	NUK-F231264	2成分形アクリルウレタン樹脂トップコート（弱溶剤系）速乾タイプ
HGコート	F☆☆☆☆	NUK-F06070	1成分形無機質調アクリルシリコン樹脂トップコート（水系）

・弱溶剤系とは、トルエンやキシレンの他、有機溶剤中毒予防規則の対象物質を配合していないことを言います。

施工部位

屋上  
ベランダ  
開放廊下・階段室

# 屋上・ルーフバルコニー〈既存がコンクリート押えの場合〉

# 屋上〈既存が露出アスファルト防水の場合〉

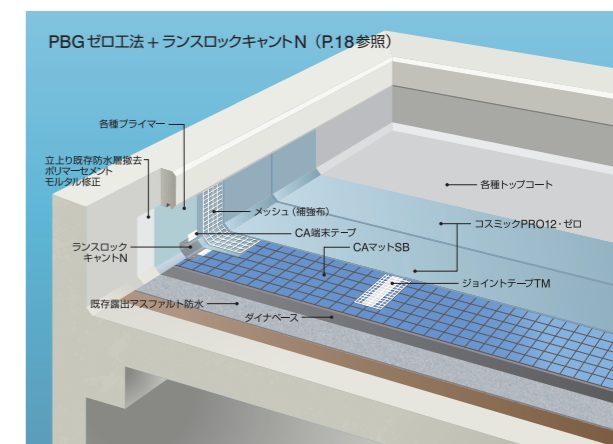
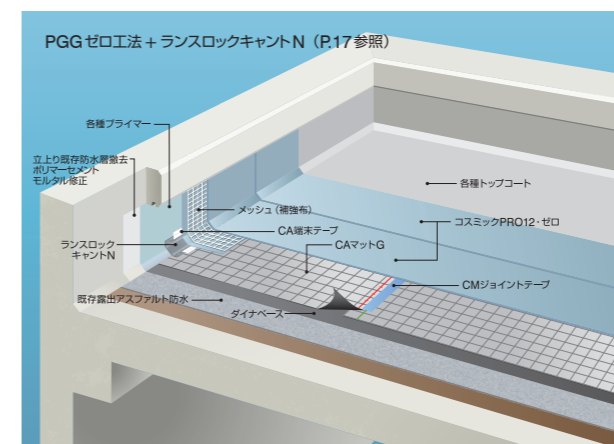
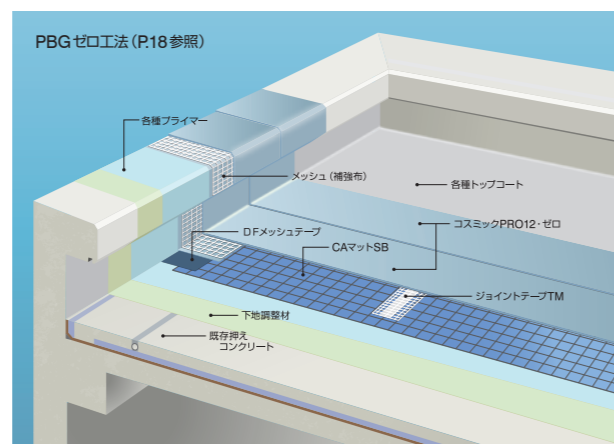
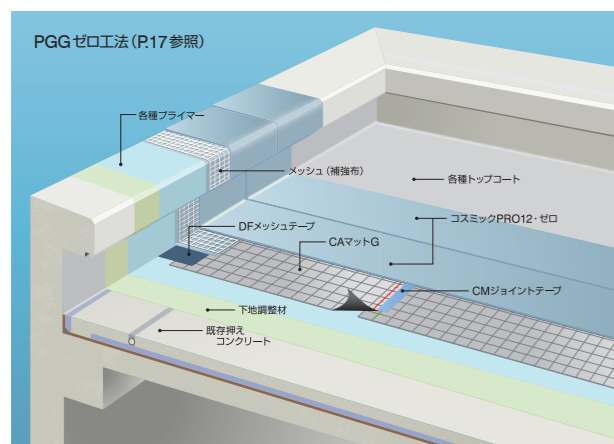


## ■ 通気緩衝工法

通気緩衝シートとウレタン塗膜防水材を組み合わせた通気緩衝工法で押えコンクリート仕上げの場合のスタンダードな仕様です。上層がウレタン塗膜防水層であるため、次回改修時にも塗重ね改修による低コスト改修が可能です。維持管理コストを抑えたい方におすすめです。

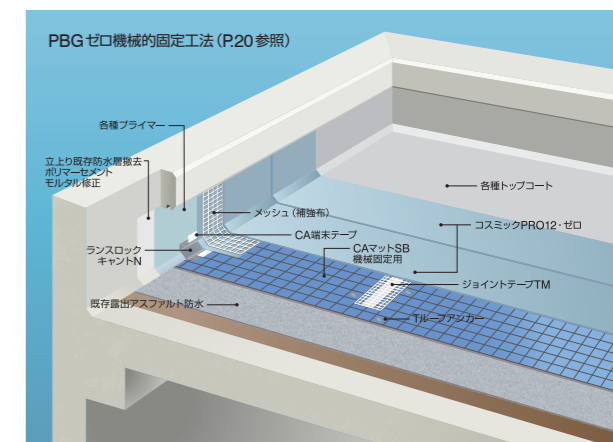
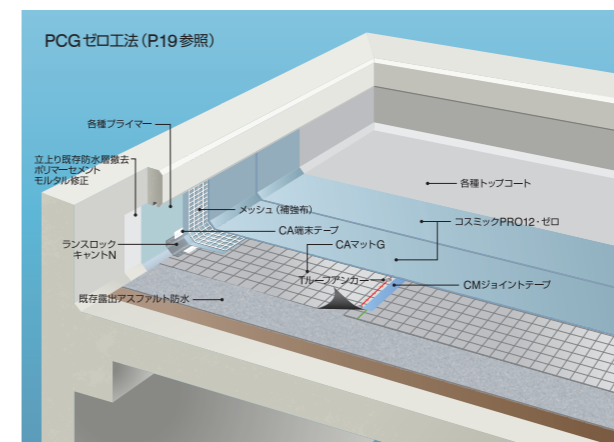
## ■ 通気緩衝工法

既存防水層をほとんど撤去せずに改修できるCAマットGまたはCAマットSB仕様。(アスファルト活性剤を下地処理として用います)上層がウレタン塗膜防水層であるため、次回改修時にも塗重ね改修による低コスト改修が可能です。維持管理コストを抑えたい方におすすめです。



## ■ 機械的固定工法

既存防水層をほとんど撤去せずに改修できる機械的固定工法。上層がウレタン塗膜防水層であるため、次回改修時にも塗重ね改修による低コスト改修が可能です。維持管理コストを抑えたい方におすすめです。

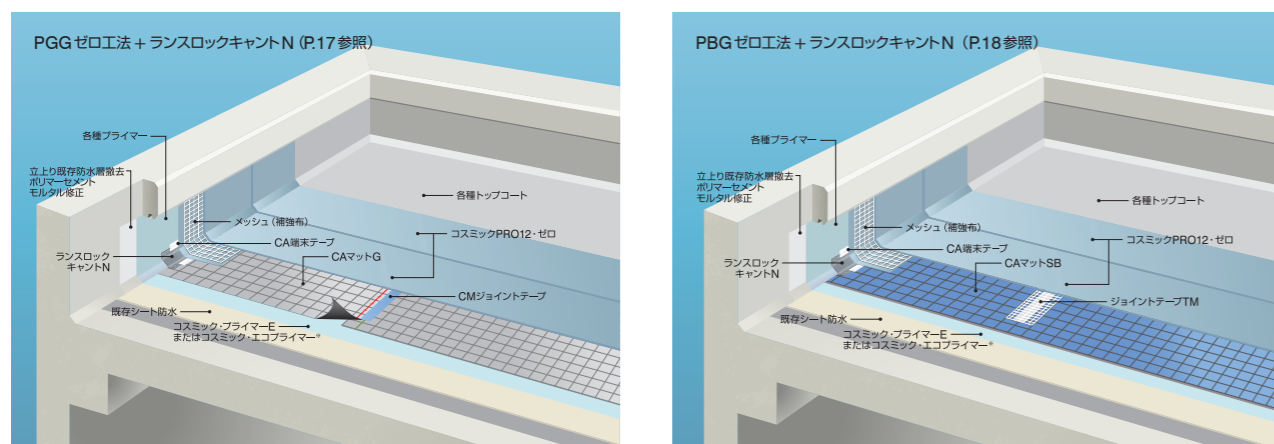


# 屋上<既存がシート防水の場合>



## ■ 通気緩衝工法

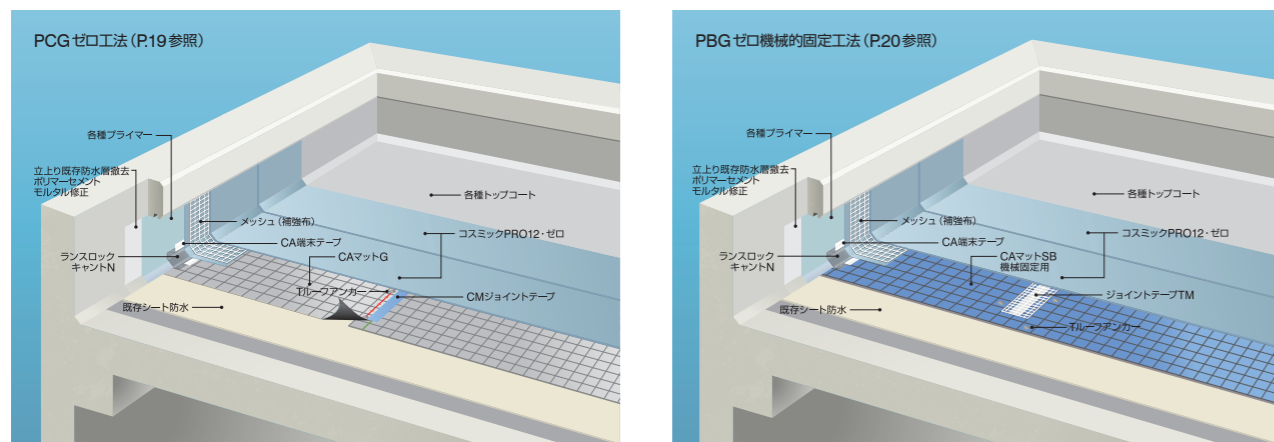
既存防水層をほとんど撤去せずに改修できるCAマットGまたはCAマットSB仕様。上層がウレタン塗膜防水層であるため、次回改修時にも塗重ね改修による低コスト改修が可能です。維持管理コストを抑えたい方におすすめです。



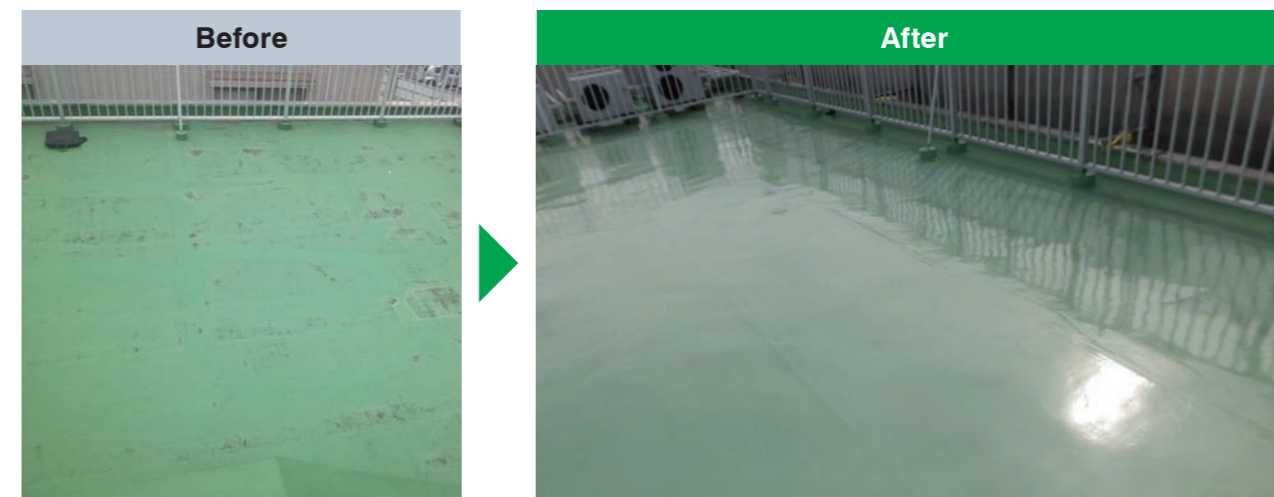
※既存シート防水が塩ビシートの場合はコスミックプライマー-Eを用い、ゴムシートの場合はコスミック・エコプライマーを用います。

## ■ 機械的固定工法

既存防水層をほとんど撤去せずに改修できる機械的固定工法。上層がウレタン塗膜防水層であるため、次回改修時にも塗重ね改修による低コスト改修が可能です。維持管理コストを抑えたい方におすすめです。

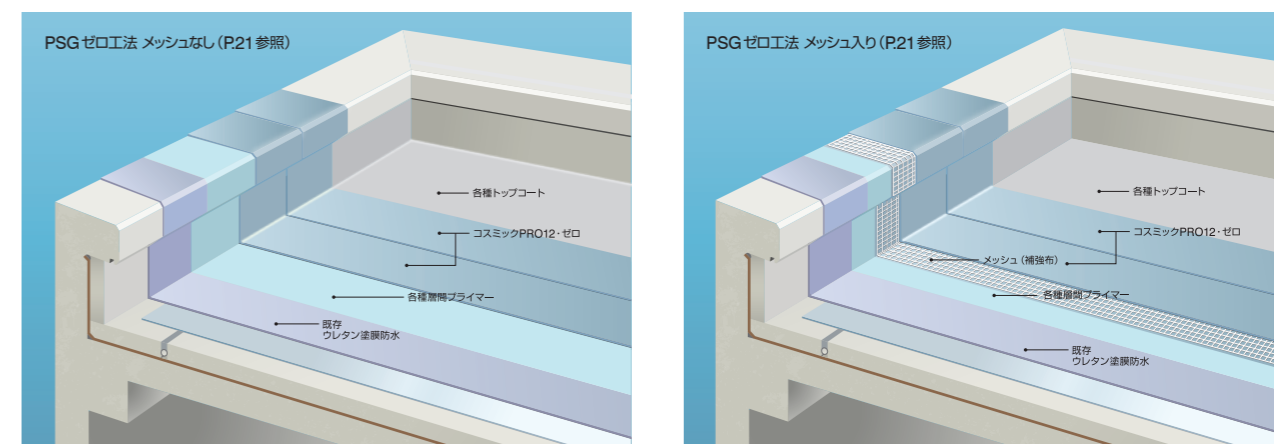


# 屋上<既存がウレタン塗膜防水の場合>



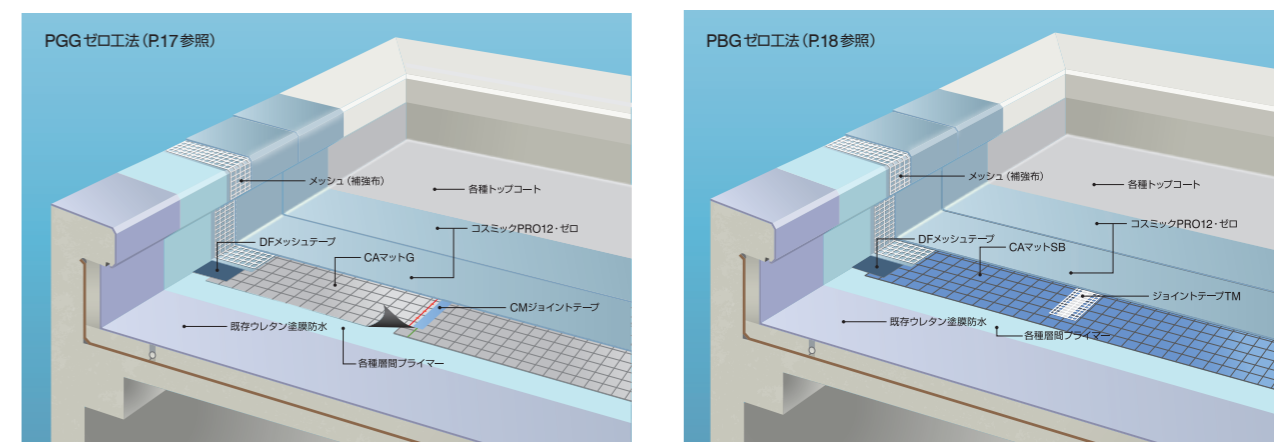
## ■ 密着工法

ウレタン塗膜防水材のメリットを活かした増し塗り改修工法(オーバーレイ工法)。既存ウレタン塗膜防水層の傷み具合が良好な場合、最も経済的な改修工法です。



## ■ 通気緩衝工法

既存防水層をほとんど撤去せずに改修できるCAマットGまたはCAマットSB仕様。上層がウレタン塗膜防水層であるため、次回改修時にも塗重ね改修による低コスト改修が可能です。維持管理コストを抑えたい方におすすめです。

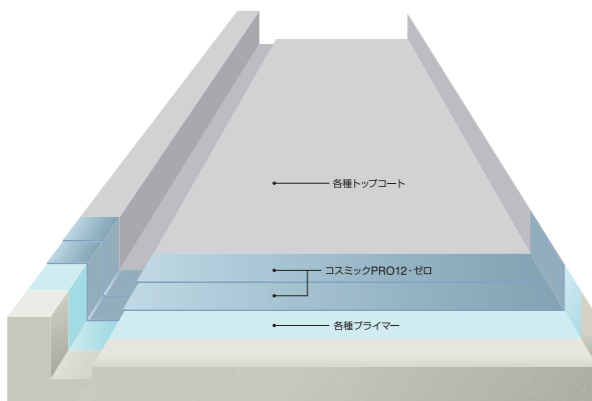




■ 密着工法

長年の実績を誇るベランダ防水のスタンダードともいえるウレタン塗膜防水工法。防水層の継ぎ目(ジョイント)が存在しないため高い防水性能を有しています。

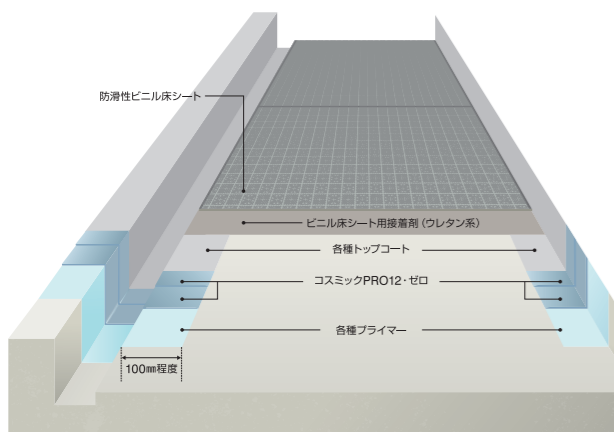
PSGゼロ工法 メッシュなし (P.21参照)



■ 防滑性ビニル床シート複合工法

床面に美観に富む防滑性ビニル床シートを使用し、立上りと排水溝をウレタン塗膜防水で一体化させる美観重視型のハイブリッド仕様です。

側溝・巾木: PSGゼロ工法 メッシュなし (P.21参照) 平場: 防滑性ビニル床シート

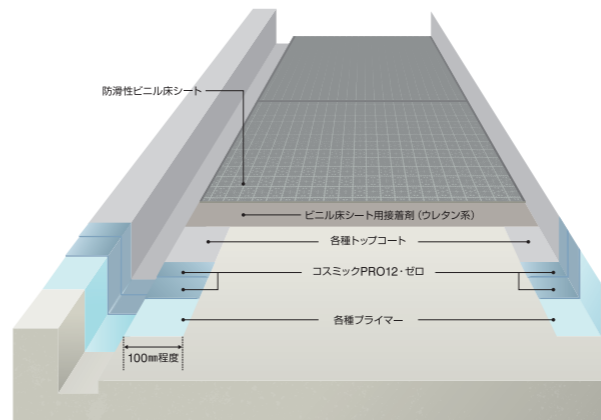


■ 防滑性ビニル床シート複合工法

床面に美観に富む防滑性ビニル床シートを使用し、立上りと排水溝をウレタン塗膜防水で一体化させる美観重視型のハイブリッド仕様です。

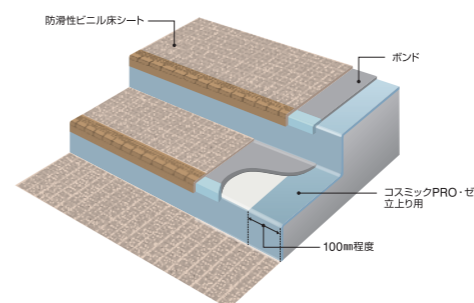
開放廊下

側溝・巾木: PSGゼロ工法 メッシュなし (P.21参照) 平場: 防滑性ビニル床シート

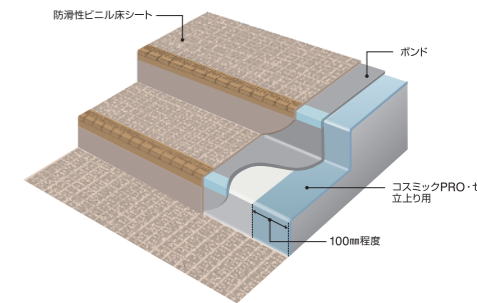


階段室

蹴込・側溝・巾木: PSGゼロ工法 メッシュなし (P.21参照) 踏面のみ防滑性ビニル床シート



側溝・巾木: PSGゼロ工法 メッシュなし (P.21参照) 踏面・蹴込一体の防滑性ビニル床シート



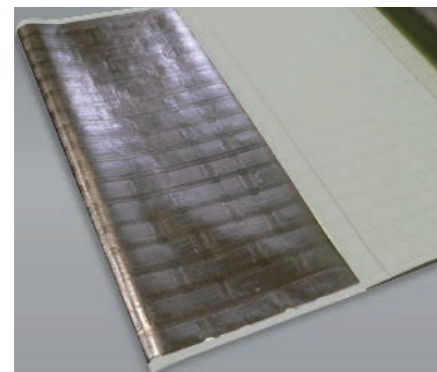
# 防水工法

- 通気緩衝工法
- 機械的固定工法
- 密着工法
- 共通立上り工法
- 公共建築工事標準仕様
- UR 都市機構保全工事共通仕様
- 施工条件と注意事項

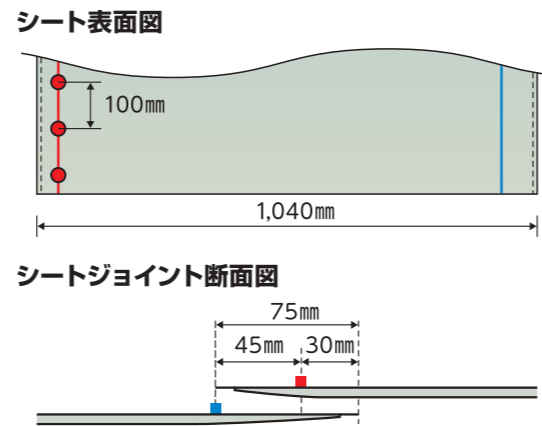
# 通気緩衝工法 (PGG ゼロ工法 / PBG ゼロ工法)

## CAマットG【自着層付改質アスファルトシート】

CAマットGは、シート構成材に改質アスファルトを採用し、単独でも十分な防水性能を持たせました。ウレタン塗膜防水材との組み合わせにより、複合防水工法としてウレタン塗膜防水工法の性能を飛躍的に向上させることが可能です。

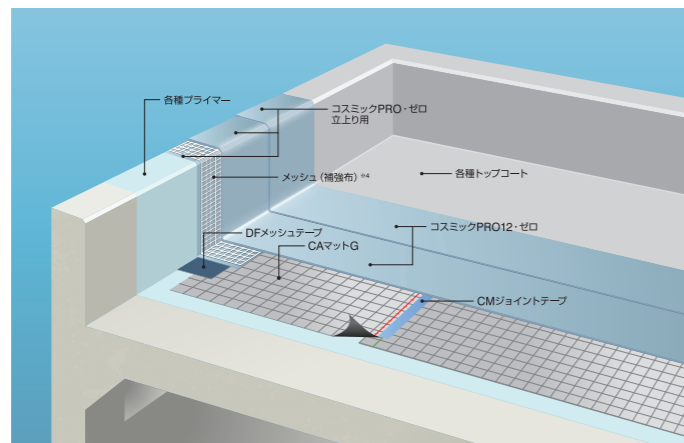


表面・グレー / 裏面・黒



\* 長手ジョイント部は青のライン上に赤のライン側の末端を重ねて貼ることで、段差が目立たない仕上りとなります。

### PGG ゼロ工法



#### PGG-20 ゼロ

工程	使用材料	使用量 /㎡
1	各種プライマー	*1
2	CAマットG	1.03m
	CMジョイントテープ	1.2m*2
	DFメッシュテープ	0.3m*2
3	コスミックPRO12・ゼロ	1.3kg
4	コスミックPRO12・ゼロ	1.3kg
5	各種トップコート	0.2kg*3

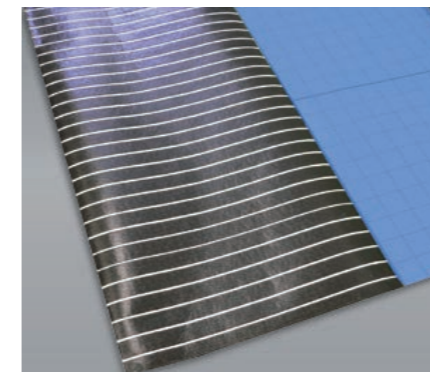
#### PGG-30 ゼロ

工程	使用材料	使用量 /㎡
1	各種プライマー	*1
2	CAマットG	1.03m
	CMジョイントテープ	1.2m*2
	DFメッシュテープ	0.3m*2
3	コスミックPRO12・ゼロ	1.9kg
4	コスミックPRO12・ゼロ	2.0kg
5	各種トップコート	0.2kg*3

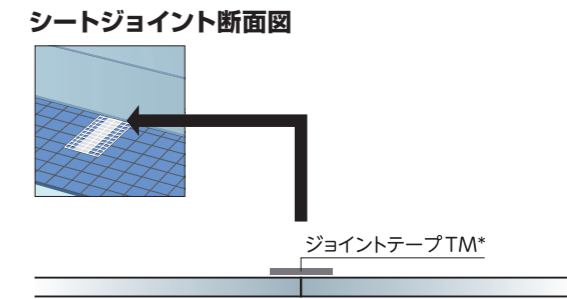
\*1 下地の種類によりプライマーの種類と塗布量が異なります。詳しくはP.47の適合表を参照してください。 \*2 現場の状況によって異なります。  
\*3 ACトップアクリアとHGコート仕上げの場合、工程と塗布量が異なります。 \*4 状況に応じてP.56より選択できます。  
\*CMジョイントテープはその他のテープに変更することも可能です。 \*既存下地の不陸の影響により、仕上りが平滑にならない場合があります。 \*仕様については予告なく変更することがあります。

## CAマットSB【自着層付粘着ブチルゴムシート】

ポリエステル不織布と粘着ブチルから構成される通気緩衝工法シートです。表層の特殊フィルムは十分な撥水効果があり、施工中の降雨の影響を受けにくくなります。不織布の柔軟性と粘着ブチルの接着力により各種下地になじみやすく、下地追従性、通気性に優れたウレタン塗膜防水工法を形成します。

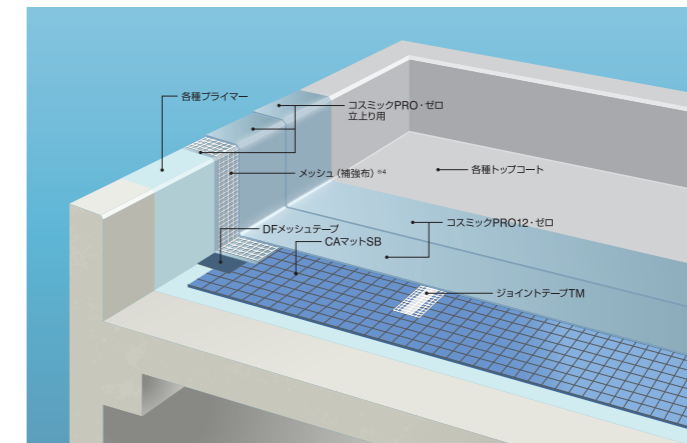


表面・ブルー / 裏面・ストライプ (白黒)



\*シートのジョイントは、長手方向、短手方向ともに突き付けとなります。

### PBG ゼロ工法



#### PBG-20 ゼロ

工程	使用材料	使用量 /㎡
1	各種プライマー	*1
2	CAマットSB	1.0m
	ジョイントテープTM	1.2m*2
	DFメッシュテープ	0.3m*2
3	コスミックPRO12・ゼロ	1.3kg
4	コスミックPRO12・ゼロ	1.3kg
5	各種トップコート	0.2kg*3

#### PBG-30 ゼロ

工程	使用材料	使用量 /㎡
1	各種プライマー	*1
2	CAマットSB	1.0m
	ジョイントテープTM	1.2m*2
	DFメッシュテープ	0.3m*2
3	コスミックPRO12・ゼロ	1.9kg
4	コスミックPRO12・ゼロ	2.0kg
5	各種トップコート	0.2kg*3

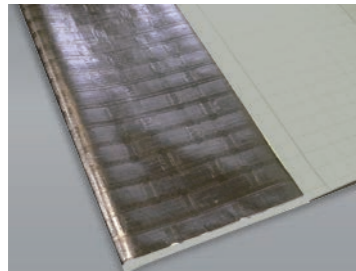
\*1 下地の種類によりプライマーの種類と塗布量が異なります。詳しくはP.47の適合表を参照してください。 \*2 現場の状況によって異なります。  
\*3 ACトップアクリアとHGコート仕上げの場合、工程と塗布量が異なります。 \*4 状況に応じてP.56より選択できます。  
\*既存下地の不陸の影響により、仕上りが平滑にならない場合があります。 \*仕様については予告なく変更することがあります。

# 機 械的固定工法(PCGゼロ工法 / PBGゼロ機械的固定工法)

## CAマットG【自着層付改質アスファルトシート】

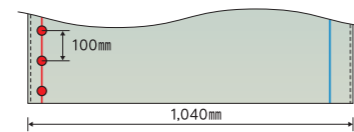
既存下地にCA マットGを被せてアンカーで固定する工法です。既存下地材の撤去を低減し、新たに防水層を形成します。下地撤去が最小限に抑えられる為、工期短縮やコストダウンが図れ、また、施工中の漏水事故や産業廃棄物処理が抑制できます。

### 写真

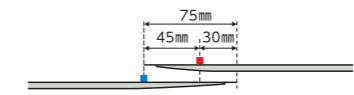


表面・グレー / 裏面・黒

### シート表面図



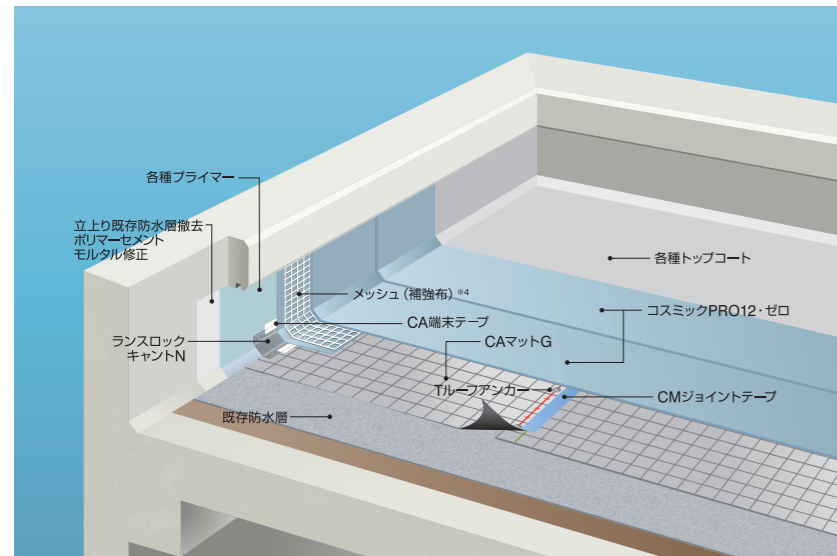
### シートジョイント断面図



\* 長手ジョイント部は青のライン上に赤のライン側の末端を重ねて貼ることで、段差が目立たない仕上がりとなります。

- ① CA マットGの長手・短手ジョイントにはCMジョイントテープで補強貼りをを行います。
- ② 短手のジョイントは隣接するシートと500mm以上ずらします。
- ③ CA マットGの末端はランスロックキャントNまたは、TルーフプレートAをアンカーピンで固定し、CA 端末テープで補強張りを行います。
- ④ アンカーは、CA マットGの赤ラインを目安に400mmピッチにて打込みます。(100mmピッチで赤印が付いています。)
- ⑤ 断熱材がある場合のトップコートは高反射色になります。

### PCGゼロ工法



PCG-30ゼロ (ランスロックキャントNを使用する場合)

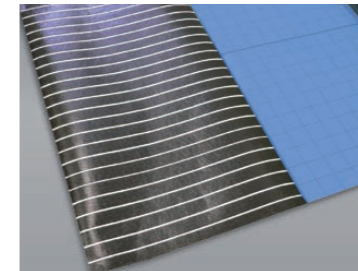
工程	使用材料	使用量 /㎡
1	CA マットG	1.03m
	CMジョイントテープ	1.2m <sup>*1</sup>
2	《ジョイント部》 アンカー	2.5本 <sup>*2</sup>
	《端部》 ランスロックキャントN+ Tルーフアンカー + CA 端末テープ	
3	コスミックPRO12・ゼロ	1.9kg
4	コスミックPRO12・ゼロ	2.0kg
5	各種トップコート	0.2kg <sup>*3</sup>

\*1 現場の状況によって異なります。 \*2 端部は別途積算します。 \*3 ACトップアックアとHGコート仕上げの場合、工程と塗布量が異なります。 \*4 状況に応じてP.56より選択できます。  
\*CMジョイントテープはその他のテープに変更することも可能です。 \*既存下地の不陸の影響により、仕上りが平滑にならない場合があります。 \*仕様については予告なく変更することがあります。

## CAマットSB機械固定用【自着層付粘着ブチルゴムシート】

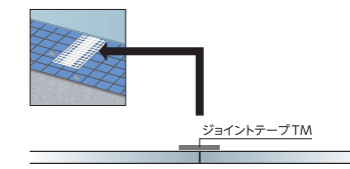
既存下地上にCA マットSB 機械固定用を被せてアンカーで固定する工法です。既存下地を撤去することなく、新たに防水層を形成します。下地撤去が最小限に抑えられる為、工期短縮やコストダウンが図れます。また、施工中の漏水事故や産業廃棄物処理費用が抑制できます。

### 写真



表面・ブルー / 裏面・ストライプ (白黒)

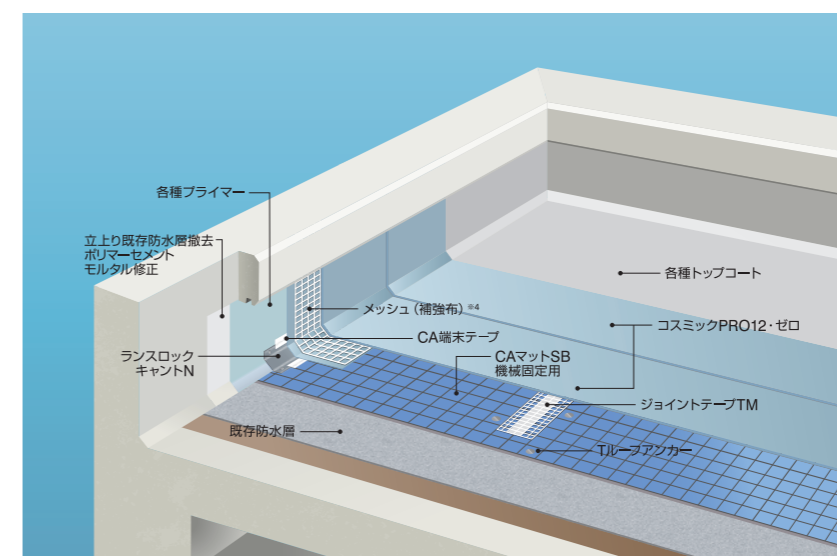
### ジョイント断面図



\*シートのジョイントは、長手方向、短手方向ともに突き付けとなります。

- ① CA マットSB 機械固定用の長手・短手ジョイントには「ジョイントテープTM」で補強貼りをを行います。
- ② 短手のジョイントは隣接するシートと500mm以上ずらします。
- ③ CA マットSB 機械固定用の末端はランスロックキャントNまたは、TルーフプレートAをアンカーピンで固定し、CA 端末テープで補強張りを行います。
- ④ アンカーは、CA マットSB 機械固定用のラインを目安に400mmピッチにて打込みます。
- ⑤ 断熱材がある場合のトップコートは高反射色になります。

### PBGゼロ機械的固定工法



PBG-30ゼロ機械的固定(ランスロックキャントNを使用する場合)

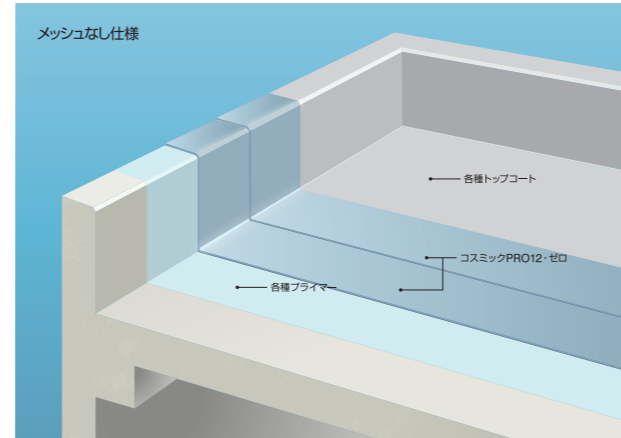
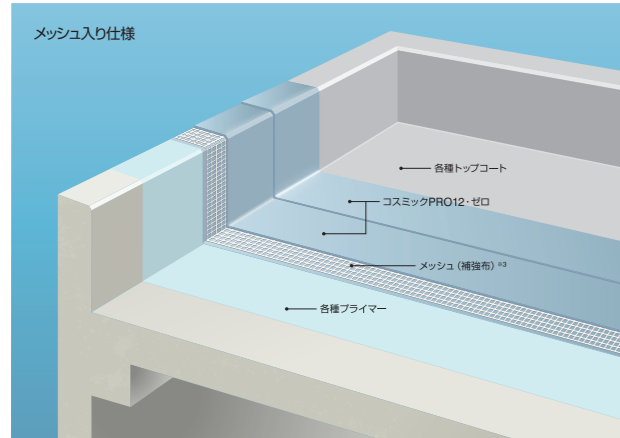
工程	使用材料	使用量 /㎡
1	CA マットSB 機械固定用	1.0m
	ジョイントテープTM	1.2m <sup>*1</sup>
2	《ジョイント部》 アンカー	2.5本 <sup>*2</sup>
	《端部》 ランスロックキャントN+ Tルーフアンカー + CA 端末テープ	
3	コスミックPRO12・ゼロ	1.9kg
4	コスミックPRO12・ゼロ	2.0kg
5	各種トップコート	0.2kg <sup>*3</sup>

\*1 現場の状況によって異なります。 \*2 端部は別途積算します。 \*3 ACトップアックアとHGコート仕上げの場合、工程と塗布量が異なります。 \*4 状況に応じてP.56より選択できます。  
\*既存下地の不陸の影響により、仕上りが平滑にならない場合があります。 \*仕様については予告なく変更することがあります。

# 密着工法 (PSG工法)

密着工法は、下地面に直接ウレタン塗膜防水材を塗布する露出防水工法です。納まりの良さを生かした狭小部位や複雑な形状部位、既存下地がウレタン塗膜防水材等の場合の改修に適しています。防水層の厚み確保および補強の為にクロスを併用することも可能です。

## PSGゼロ工法



### PSG-20C ゼロ

工程	使用材料	使用量 /㎡
1	各種プライマー	※ 1
2	コスミックPRO12・ゼロ	0.4kg
3	メッシュ (補強布) ※3	1.1m
4	コスミックPRO12・ゼロ	1.0kg
5	コスミックPRO12・ゼロ	1.2kg
6	各種トップコート	0.2kg※2

### PSG-30C ゼロ

工程	使用材料	使用量 /㎡
1	各種プライマー	※ 1
2	コスミックPRO12・ゼロ	0.4kg
3	メッシュ (補強布) ※3	1.1m
4	コスミックPRO12・ゼロ	1.7kg
5	コスミックPRO12・ゼロ	1.8kg
6	各種トップコート	0.2kg※2

### PSG-20 ゼロ

工程	使用材料	使用量 /㎡
1	各種プライマー	※ 1
2	コスミックPRO12・ゼロ	1.3kg
3	コスミックPRO12・ゼロ	1.3kg
4	各種トップコート	0.2kg※2

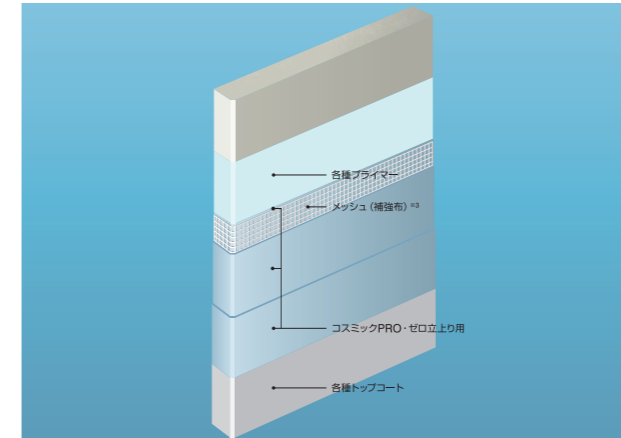
### PSG-30 ゼロ

工程	使用材料	使用量 /㎡
1	各種プライマー	※ 1
2	コスミックPRO12・ゼロ	1.9kg
3	コスミックPRO12・ゼロ	2.0kg
4	各種トップコート	0.2kg※2

# 共通立上り工法 (PV工法)

共通立上り工法は、平場の密着工法・通気緩衝工法・機械的固定工法の立上り部に共通する、立上り専用の工法です。防水層の厚み確保および補強のためにメッシュを併用することも可能です。(通気緩衝工法および機械的固定工法の立上りは、必ずメッシュ入り仕様です。)

## PVゼロ工法



### PV-20C ゼロ

工程	使用材料	使用量 /㎡
1	各種プライマー	※ 1
2	コスミックPRO・ゼロ立上り用	0.5kg
3	メッシュ (補強布) ※3	1.1m
4	コスミックPRO・ゼロ立上り用	1.2kg
5	コスミックPRO・ゼロ立上り用	1.3kg
6	各種トップコート	0.2kg※2

### PV-20 ゼロ

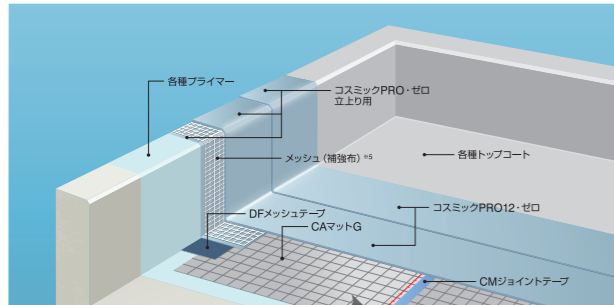
工程	使用材料	使用量 /㎡
1	各種プライマー	※ 1
2	コスミックPRO・ゼロ立上り用	1.5kg
3	コスミックPRO・ゼロ立上り用	1.5kg
4	各種トップコート	0.2kg※2

※ 1 下地の種類によりプライマーの種類と塗布量が異なります。詳しくはP.47の適合表を参照してください。  
 ※ 2 ACトップアークとHGコート仕上げの場合、工程と塗布量が異なります。 ※ 3 状況に応じてP.56より選択できます。  
 • 既存下地の不陸の影響により、仕上がりが平滑にならない場合があります。 • 仕様については予告なく変更することがあります。

※ 1 下地の種類によりプライマーの種類と塗布量が異なります。詳しくはP.47の適合表を参照してください。  
 ※ 2 ACトップアークとHGコート仕上げの場合、工程と塗布量が異なります。 ※ 3 状況に応じてP.56より選択できます。  
 • 通気緩衝工法および機械的固定工法の立上り仕様は、全てPV-20Cゼロ (メッシュ入り仕様)を選定します。 • 既存下地の不陸の影響により、仕上がりが平滑にならない場合があります。  
 • 仕様については予告なく変更することがあります。

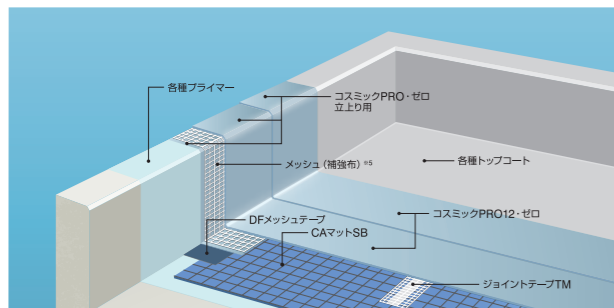
# 公共建築工事標準仕様(令和7年版)

## X-1 平場仕様



PGX-1ゼロ(CAマットG仕様)

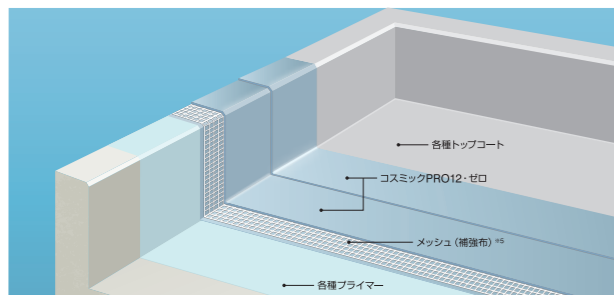
工程	使用材料	使用量/m <sup>2</sup>
1	各種プライマー	※1
2	CAマットG	1.03m
	CMジョイントテープ DFメッシュテープ	1.2m <sup>※2</sup> 0.3m <sup>※2</sup>
3	コスミックPRO12・ゼロ	1.9kg <sup>※3</sup>
4	コスミックPRO12・ゼロ	2.0kg <sup>※3</sup>
5	各種トップコート	0.2kg <sup>※4</sup>



PBX-1ゼロ(CAマットSB仕様)

工程	使用材料	使用量/m <sup>2</sup>
1	各種プライマー	※1
2	CAマットSB	1.0m
	ジョイントテープTM DFメッシュテープ	1.2m <sup>※2</sup> 0.3m <sup>※2</sup>
3	コスミックPRO12・ゼロ	1.9kg <sup>※3</sup>
4	コスミックPRO12・ゼロ	2.0kg <sup>※3</sup>
5	各種トップコート	0.2kg <sup>※4</sup>

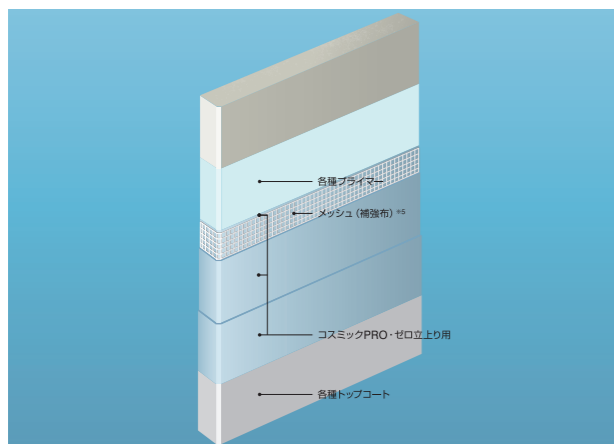
## X-2 平場仕様



PX-2ゼロ

工程	使用材料	使用量/m <sup>2</sup>
1	各種プライマー	※1
2	コスミックPRO12・ゼロ	0.4kg
3	メッシュ(補強布) <sup>※6</sup>	1.1m
4	コスミックPRO12・ゼロ	1.7kg <sup>※3</sup>
5	コスミックPRO12・ゼロ	1.8kg <sup>※3</sup>
6	各種トップコート	0.2kg <sup>※4</sup>

## X-2 立上り仕様



PVX-2ゼロ

工程	使用材料	使用量/m <sup>2</sup>
1	各種プライマー	※1
2	コスミックPRO・ゼロ立上り用	0.5kg
3	メッシュ(補強布) <sup>※6</sup>	1.1m
4	コスミックPRO・ゼロ立上り用	1.2kg <sup>※5</sup>
5	コスミックPRO・ゼロ立上り用	1.3kg <sup>※5</sup>
6	各種トップコート	0.2kg <sup>※4</sup>

※1 プライマーの種類および塗布量については、P.47の適合表を参照してください。 ※2 現場の形状により異なります。  
 ※3 標準仕様書の適用では、1工程あたりの使用量を2.6kgを上限として変更することができます。 ※4 ACトップアークとHGコート仕上げの場合、工程と塗布量が異なります。  
 ※5 標準仕様書の適用では、1工程あたりの使用量を1.8kgを上限として変更することができます。 ※6 状況に応じてP.56より選択できます。  
 ・ジョイントテープは施工条件により選択してください。 ・既存下地の不陸の影響により、仕上がりが平滑にならない場合があります。 ・仕様については予告なく変更することがあります。

## 公共建築工事標準仕様書 令和7年版(抜粋)

(ア) 防水層の工程による種別は、特記による。特記がなければ表9.5.1とし、その適用は特記による。

表9.5.1 ウレタンゴム系塗膜防水工法の種別及び工程

種別	X-1(絶縁工法)		X-2(密着工法)	
	材料・工法	使用量(kg/m <sup>2</sup> )	材料・工法	使用量(kg/m <sup>2</sup> )
1	接着剤塗り通気緩衝シート張り <sup>(注)1</sup>	0.3	プライマー塗り	— <sup>(注)7</sup>
2	ウレタンゴム系防水材塗り	3.0 <sup>(注)4、(注)5</sup>	ウレタンゴム系防水材塗り 補強布張り	0.3
3	ウレタンゴム系防水材塗り		ウレタンゴム系防水材塗り	2.7 <sup>(注)4、(注)5</sup> (1.7) <sup>(注)2</sup>
4	仕上塗料塗り <sup>(注)6</sup>	—	ウレタンゴム系防水材塗り	—
5	—	—	仕上塗料塗り <sup>(注)6</sup>	—

(注)1. 接着剤以外による通気緩衝シートの張付け方法は、主材料の製造所の仕様による。  
 2. 立上り部は全て、種別X-2とし、工程3及び工程4のウレタンゴム系防水材の使用量を( )内とする。  
 3. 表中のウレタンゴム系防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物比重がこれ以外の場合は、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。  
 4. ウレタンゴム系防水材塗りは、2回以上に分割して塗り付ける。  
 5. ウレタンゴム系防水材塗りの1工程当たりの使用量は、平場は2.5kg/m<sup>2</sup>、立上りは1.5kg/m<sup>2</sup>を上限とする。  
 6. 仕上塗料の種類及び使用量は、特記による。特記がなければ、使用量は主材料の製造所の仕様による。  
 7. 使用量は主材料の製造所の仕様による。

(イ) 種別X-1において、脱気装置の種類及び設置数量は、特記による。特記がなければ、主材料の製造所の仕様による。

## 公共建築改修工事標準仕様書 令和7年版(抜粋)

(1) P0X工法及びL4X工法は、次による。

(ア) 新規防水層の種別及び工程は表3.6.1により、種別は特記による。

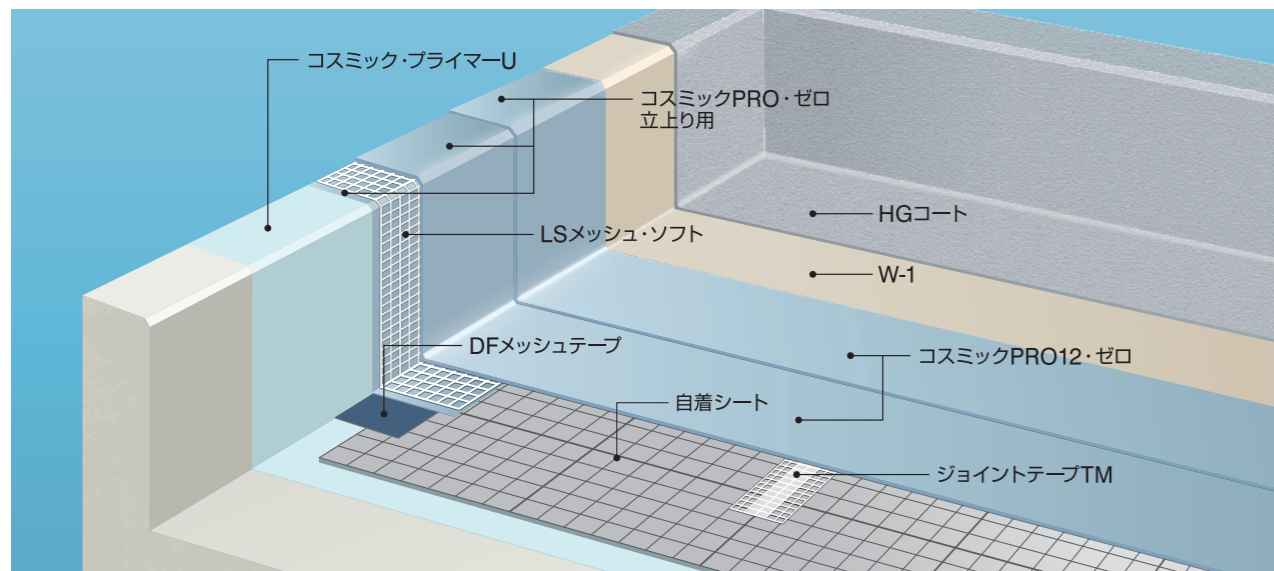
表3.6.1 ウレタンゴム系高伸長形塗膜防水工法の種別及び工程

種別	X-1(絶縁工法)		X-2(密着工法)	
	材料・工法	使用量(kg/m <sup>2</sup> )	材料・工法	使用量(kg/m <sup>2</sup> )
1	接着剤塗り通気緩衝シート張り <sup>(注)1</sup>	—	プライマー塗り	— <sup>(注)8</sup>
2	ウレタンゴム系高伸長形防水材塗り	3.0 <sup>(注)5、(注)6</sup>	ウレタンゴム系高伸長形防水材塗り 補強布張り	0.3
3	ウレタンゴム系高伸長形防水材塗り		ウレタンゴム系高伸長形防水材塗り	2.7 <sup>(注)5、(注)6</sup> (1.7) <sup>(注)3</sup>
4	仕上塗料塗り <sup>(注)7</sup>	—	ウレタンゴム系高伸長形防水材塗り	—
5	—	—	仕上塗料塗り <sup>(注)7</sup>	—

(注)1. 接着剤以外による通気緩衝シートの張付け方法は、主材料の製造所の仕様による。  
 2. L4X工法で既存防水層の表面に層間接着用プライマーを塗布した場合は、工程1を省略する。  
 3. 立上り部は全て、種別X-2とし、工程3及び工程4のウレタンゴム系防水材の使用量を( )内とする。  
 4. 表中のウレタンゴム系防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物比重がこれ以外の場合は、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。  
 5. ウレタンゴム系防水材塗りは、2回以上に分割して塗り付ける。  
 6. ウレタンゴム系防水材塗りの1工程当たりの使用量は、平場は2.5kg/m<sup>2</sup>、立上りは1.5kg/m<sup>2</sup>を上限とする。  
 7. 仕上塗料の種類及び使用量は、特記による。特記がなければ、使用量は主材料の製造所の仕様による。  
 8. 使用量は主材料の製造所の仕様による。

# UR都市再生機構保全工事共通仕様(令和5年版)

## 脱気絶縁複合防水工事(歩行用ウレタンゴム系)



平場 PJUR-30

工程	使用材料	使用量/m <sup>2</sup>
1	コスミック・プライマーU	0.2kg
2	自着シート	1.0m
	ジョイントテープTM	1.2m*
	DFメッシュテープ	0.3m*
3	コスミックPRO12・ゼロ	2.0kg
4	コスミックPRO12・ゼロ	1.9kg
5	W-1	0.15kg
6	HGコート	1.2kg

\* 珪砂を使用する場合はW-1塗布後に0.8kg/m<sup>2</sup>散布します。

立上り PVUR-25C

工程	使用材料	使用量/m <sup>2</sup>
1	コスミック・プライマーU	0.2kg
2	コスミックPRO・ゼロ立上り用	0.8kg
3	LSメッシュ・ソフト	1.1m
4	コスミックPRO・ゼロ立上り用	1.5kg
5	コスミックPRO・ゼロ立上り用	1.5kg
6	W-1	0.1kg
7	HGコート	1.0kg

## 脱気絶縁複合防水工事(全面修繕2回目以降)

平場 PSUR-30C

工程	使用材料	使用量/m <sup>2</sup>
1	コスミック・プライマーU	0.2kg
2	コスミックPRO12・ゼロ	0.4kg
3	LSメッシュ・ソフト	1.1m
4	コスミックPRO12・ゼロ	2.0kg
5	コスミックPRO12・ゼロ	1.5kg
6	W-1	0.15kg
7	HGコート	1.2kg

\* 珪砂を使用する場合はW-1塗布後に0.8kg/m<sup>2</sup>散布します。

立上り PVUR-20C

工程	使用材料	使用量/m <sup>2</sup>
1	コスミック・プライマーU	0.2kg
2	コスミックPRO・ゼロ立上り用	0.5kg
3	LSメッシュ・ソフト	1.1m
4	コスミックPRO・ゼロ立上り用	1.3kg
5	コスミックPRO・ゼロ立上り用	1.2kg
6	W-1	0.1kg
7	HGコート	1.0kg

### バルコニー等床防水工事(ウレタンゴム系)

平場 PSUR-20 / 立上り PVUR-20

工程	使用材料	使用量/m <sup>2</sup>
1	コスミック・プライマーU	0.2kg
2	《平場》コスミックPRO12・ゼロ	2.6kg
	《立上り》コスミックPRO・ゼロ立上り用	3.0kg
3	DSトップ・ゼロ+粗面仕上材	0.1kg
4	DSトップ・ゼロ+粗面仕上材	0.1kg

### バルコニー等床防水工事(ウレタンゴム系全面修繕2回目以降)

平場 PSUR-15 / 立上り PVUR-15

工程	使用材料	使用量/m <sup>2</sup>
1	コスミック・プライマーE	0.15kg
2	《平場》コスミックPRO12・ゼロ	2.0kg
	《立上り》コスミックPRO・ゼロ立上り用	2.3kg
3	DSトップ・ゼロ+粗面仕上材	0.1kg
4	DSトップ・ゼロ+粗面仕上材	0.1kg

※現場の状況によって異なります。

• 既存下地の不陸の影響により、仕上りが平滑にならない場合があります。 • 仕様については予告なく変更することがあります。

# 防水施工条件

## ■ 防水施工条件【新築】

信頼性の高い防水層を設置するため、防水施工の前に以下の項目について条件が満たされていることをご確認ください。

- 下地の強度が十分であること。
  - 現場打ちコンクリートは設計基準強度を満たしていること。
  - 防水層に悪影響を及ぼさないように配筋上の配慮や調査設計上の工夫、ならびに打設後の養生等の施工管理に注意することでひび割れの発生を少なくし、分散させる。
  - 降雨中のコンクリート打設、及びコンクリート打設後の降雨等で強度が著しく低下している場合は、ハツリ撤去の上コンクリートを打ち直す等の処置にて強度を復旧させる。
- 下地の乾燥が十分であること。
  - 目視にて表面が白く乾燥していることを確認する。  
一般的に普通コンクリートで夏季3週間・冬季4週間程度の乾燥養生期間を目安とするが、下地構成（デッキプレートなどの片面乾燥や吸水性の高い下地等）や天候によって大きく左右されるため、防水層の施工に先立ち以下のような方法で充分に乾燥していることを確認する。
    - 高周波静電容量式水分計を使用した測定。
    - 不透湿シートで床下地表面を覆い周囲をガムテープ等の張付けで密封状態とし、翌日に内面の結露水の有無を確認する。
- 表面が平滑であること。
  - 平場面は金ゴテ押えで平滑とする。
  - 浮き・表面剥離・レイタンス等の脆弱部および鉄筋・番線等の突起物は除去する。
  - 豆板・気泡・あばた・目違い・段差・砂すじ等の表面不具合に対する処置を施す。
  - 立上りも平場と同様に平滑とし、凹凸や不具合も平場と同様の処置を施す。また水切りを良くし、雨仕舞いの納まりをよく検討しておく。
  - ポリマーセメントモルタルを使用する場合は、プライマーの塗布やウレタン塗膜の硬化収縮による破壊・剥離に耐え得るよう、高い接着強度と耐溶剤性を有する材料「ダブルテックス NEO」を使用する。
- できるだけ速やかに排水させるための処置を施すこと。
  - 水勾配は1/100以上とする。
  - ルーフドレンや排水落し口等はスラブ面より低くし、周囲の水はけを良くしながら堅固に設置する。
  - ドレンはアスファルト防水用またはシート防水用のツバが幅広タイプのものを使用し、塗りかけ幅を100mm以上確保する。
  - ドレンの排水能力は将来の改修工事を見据えて余裕を持たせた設定が望ましい。またドレン以外にもオーバーフロー管を設置し、ここから雨水が落ちてくることで使用者にドレンの目詰り等の排水機能の低下を知らせる措置が望まれる。
- 下地表面がよく清掃されていること。
  - プライマーや接着剤の接着性を阻害させ、また防水層を劣化させるような塵埃・油脂類・鉄錆等は除去する。
- 防水層に支障があるひび割れ・打継ぎに適切な処置が施されていること。
  - 防水層に支障が無いひび割れ（概ね1.0mm未満）にはウレタン塗膜防水材（以下：手塗りウレタン）、またはポリウレタン系シーリング材の擦り込みを施す。但し通気緩衝シートを張る場合は、この限りでは無い。
  - 防水層に支障があるひび割れ（概ね1.0mm以上）や打継ぎにはUカット後ポリウレタン系シーリング材を充填するか、手塗りウレタン+補強布による補強張り、あるいは両方の処置を施す。但し通気緩衝シートを張る場合は、この限りでは無い。
  - 誘発目地・化粧目地には予めポリウレタン系シーリング材を充填しておき、手塗りウレタン+補強布による補強張りを施す。但し通気緩衝シートを張る場合は、この限りでは無い。
- 入隅および出隅が適切に処理されていること。
  - 入隅および立上りの入隅は通りよく、直角とする。  
また出隅および立上りの出隅は通りよく、R面または45度/W=5mm以上（メーカー推奨値15～30mm程度）の面取りを施す。
- 設備基礎関連で適切な雨仕舞いができること。
  - コンクリート基礎は原則「躯体一体型」とし、防水層の上に乗せることは極力避ける。とくに総重量の大きい設備の場合はこれを遵守する。
  - 総重量および容積が大きい大型設備の基礎架台は、将来の改修工事を見据えて再塗布が可能となるような作業空間（H450mm程度以上、推奨600mm程度以上）を確保することが望ましい。
  - 表面は平滑とし、不具合部には適切な処置を施す。また天端は雨水が滞留せず、速やかに排水されるように水平ではなく角度を付けることが望ましい。なお入隅および出隅については（7）と同様とする。
  - アンカー類は原則「先打ち」とする。
  - 基礎ブロックの下やCチャン（リップ溝形鋼）・H鋼等と防水層が取合う部分には防振ゴム（t=5mm/先端から10mm以上の余剰分を確保）を設置する。
- 金物関連の取合いで適切な雨仕舞いができること。
  - H型鋼や角形鋼管を垂直に設置する場合はベースプレートで完全に固定し、ボルトにはキャップとシーリング材充填を施す。
  - 丸カン・手摺支柱足元等は防水層の巻上げ（H=15mm以上）を確保する。
  - ウレタン塗膜防水材が掛かる部分は目荒し研磨（サンドペーパー#100程度またはサンダー掛け）を行い、その後脱脂処理を施す。とくに「溶融垂鉛メッキ」等、十分な接着力を得られない可能性がある金属下地の場合は入念に行う。
- 配管および配線が防水施工に支障が無いこと。
  - 防水層上での配管および配線の設置は防水施工の後とするか、または施工に支障が無い段階での工事とする。  
また将来の改修工事を見据えて、再塗布が可能となるような措置（高さの確保、または吊上げが可能な形状と荷重）をとることが望ましい。
  - 防水層を貫通する配管や配線は可能な限り避けること。止むを得ず設置する場合は防水施工に支障が無い位置とし、スリーブを使用して手塗りウレタン（推奨：塗膜防水層100mm以上）+補強布による補強張りを施す。なお、スリーブはグラつきが無いように完全に固定する。
- PCa下地およびALC下地の場合の注意点は、以下の通りとする。
  - 水勾配は躯体でとり、部材は固定を十分に行いジョイントに生じるムーブメントを可能な限り抑えること。
  - 接合部の目違い・段差は、なだらかになるようにサンディングまたはポリマーセメントを塗布する。  
また目地部についても空際無く平坦になるように充填する。
  - 接合部に大きなムーブメントが予測される場合は、通気緩衝シートを張るか、絶縁テープ（FJテープ）を張り、手塗りウレタン（推奨：塗膜防水層100mm以上）+補強布による補強張りにて絶縁処理を施す。
  - 表面はポリマーセメントで平滑に仕上げる。その際使用する材料は3.-(5)と同様のものとする。

## ■ 防水施工条件【改修】

改修工事の場合は既存防水層の種類や劣化状況、および撤去の有無、また新設の防水仕様の種類によって下地処理の内容が異なります。以下の項目をご参考に、現場に即した適切な処置を行ってください。

- 下地の乾燥が十分であること。
  - 新設する防水層に支障が生じないよう、高圧水洗浄後は十分に乾燥させる。  
また保護仕様の場合、保護コンクリート内に残留水分があるため冬季の施工ではとくに注意し、可能な場合は洗浄に替えて機械研削を行う。
- コンクリートおよびモルタル部が健全であること。
  - 下地面は平滑にする。
  - 浮き・表面剥離等の脆弱部および鉄筋・番線等の突起物は除去する。
  - 豆板・気泡・あばた・目違い・段差・砂すじ等の表面不具合に対する処置を施す。
  - 露筋・爆裂は脆弱部を撤去し、鉄筋の錆を落した後断面修復材で処置を施す。
  - 立上りも平場と同様に平滑にし、凹凸や不具合も平場と同様の処置を施す。また水切りを良くし、雨仕舞いの納まりをよく検討しておく。
  - ポリマーセメントを使用する場合は、プライマーの塗布やウレタン塗膜の硬化収縮による破壊・剥離に耐え得るよう、高い接着強度と圧縮強度、また耐溶剤性を有する材料「ダブルテックス NEO」を使用する。
- 排水勾配は排水に支障がない程度とする。
  - 水勾配は1/100以上とする。
  - 既設のルーフドレンや排水落し口等の周囲の水はけが著しく悪い場合は、周囲のハツリ撤去や納まりの検討を行って勾配修正を施す。
  - 改修用ドレンはウレタン塗膜防水用を使用し、塗りかけ幅を100mm以上確保する。また設置に際しては排水面積計算を行い、場合によってはオーバーフロー管の設置や既設ドレンの継続使用を行う。
- 下地表面がよく清掃されていること。
  - プライマーやボンドの接着性を阻害させ、また防水層を劣化させるような塵埃・油脂類・鉄錆等は除去する。
  - ドレン付近に堆積した泥土やゴミ、繁茂しているコケ・植物等も完全に除去する。
- 防水層に支障があるひび割れ・打継ぎに適切な処置が施されていること。
  - 防水層に支障が無いひび割れ（概ね1.0mm未満）にはウレタン塗膜防水材（以下：手塗りウレタン）、またはポリウレタン系シーリング材の擦り込みを施す。但し通気緩衝シートを張る場合は、この限りでは無い。
  - 防水層に支障があるひび割れ（概ね1.0mm以上）や打継ぎにはUカット後ポリウレタン系シーリング材を充填するか、手塗りウレタン+補強布による補強張り、あるいは両方の処置を施す。但し通気緩衝シートを張る場合は、この限りでは無い。
  - 誘発目地・化粧目地には予めポリウレタン系シーリング材を充填しておき、手塗りウレタン+補強布による補強張りを施す。但し通気緩衝シートを張る場合は、この限りでは無い。
- 入隅および出隅が適切に処理されていること。
  - 入隅および立上りの入隅は通りよく、直角とする。  
また出隅および立上りの出隅は通りよく、R面または45度/W=5mm以上（メーカー推奨値15～30mm程度）の面取りを施す。
- コンクリート基礎廻りで適切な雨仕舞いができること。
  - 既存の基礎下部に隙間がある場合はポリウレタン系シーリング材の充填を施し、新規ウレタン塗膜層で巻き込む。
  - 既設の防振ゴムが著しく劣化している場合は取替えを行うか、余剰分を切除した後入隅にポリウレタン系シーリング材を打ち、コンクリート基礎ごと新規ウレタン塗膜層で巻き込む。また挙動部は手塗りウレタン+補強布による補強張りを施す。
- 金属類の取合いが適切に処置されていること。
  - 防水層と取合う金属部分は表面の汚れ・油脂類・錆・塗料を除去し、プライマーの接着が阻害されないようにする。
  - 発錆や腐食が進行し、著しく劣化したものは交換をする。
  - 固定不良が無いことを確認する。また挙動が頻繁あるいは大きいと思われる箇所については、絶縁テープ（CA端末テープ）を張り、手塗りウレタン（推奨：塗膜防水層100mm以上）+補強布による補強張りにて絶縁処理を施す。
  - ウレタン塗膜防水材が掛かる部分は目荒し研磨（サンドペーパー#100程度またはサンダー掛け）を行い、その後脱脂処理を施す。とくに「溶融垂鉛メッキ」等、十分な接着力を得られない可能性がある金属下地の場合は入念に行う。
- シーリング材の設置が適切にされていること。
  - 劣化が進行しているシーリング材は撤去し、打替えを行う。
  - 防水層に支障を生じさせないように、シーリング材の種類選択は適切に行うこと。
  - 防水層端末・金物の取合い等、必要に応じて適切なシーリング材が設置されていること。
- 保護層の伸縮目地に適切な処置がされていること。
  - MGテープ
    - 既設目地部のキャップおよび保護コンクリート表面より突出している目地材は撤去する。  
また伸縮目地の交差部はクロスラップさせずに張り付ける。
  - MGタイト
    - 既設目地材は十分に除去し、水上がりを防止するために空隙を必ず設けた上でバックアップ材を設置する。  
その後MGタイトで平滑に仕上げる。
- PCa下地およびALC下地の場合の注意点は、以下の通りとする。
  - 水勾配は躯体でとり、部材は固定を十分に行いジョイントに生じるムーブメントを可能な限り抑えること。
  - 接合部の目違い・段差は、なだらかになるようにサンディングまたはポリマーセメントを塗布する。  
また目地部についても空際無く平坦になるように充填する。
  - 接合部に大きなムーブメントが予測される場合は、通気緩衝シートを張るか、絶縁テープ（CA端末テープ）を張り、手塗りウレタン（推奨：塗膜防水層100mm以上）+補強布による補強張りにて絶縁処理を施す。
  - 表面はポリマーセメントで平滑に仕上げる。その際使用する材料は2.-(6)と同様のものとする。

# 各工法施工上および仕上りに関する注意事項

## ■ 各工法施工上および仕上りに関する注意事項

### 〈共通事項（施工）〉

- ウレタンおよびプライマー・トップコートの施工中、または硬化養生中に降雨・夜露等の水分にさらされる可能性がある場合は施工を控えてください。  
とくに水系材料は気温や湿度によって硬化時間が大きく左右されるため、注意してください。
- 溶剤系材料のうち、一部屋内の使用においては特定化学物質障害予防規則の対象となります。その場合は、同規則に従い作業主任者を選任するなど法令順守をお願いします。
- 下地に応じて適切なプライマーを選定してください。
- プライマー塗布時、下地への吸い込みが多い場合は再塗布してください。
- 使用する材料は必ず保存期間内のものをご使用ください。
- 材料の扱いに際しては SDS（安全データシート）や PDS（プロダクトデータシート）をよく読み、適切な扱いを行ってください。
- 材料は直射日光や風雨に晒される場所を避け、冷暗所に貯蔵・保管してください。
- 材料の貯蔵・保管場所へは作業員以外の立ち入りを禁止し、また転倒防止や火気厳禁等の安全対策を講じてください。
- 産業廃棄物（廃材・廃液）は適切に処理してください。
- 外断熱工法の施工や既存防水層に断熱板が設置されている場合、施工現場が湖沼や河川の近くである場合、また夜間の気温が下がる時は結露が生じることが多くなります。とくにトップコートの「艶引け（乾燥硬化前に水分の影響による現象）」を避けるため、午後からの塗布作業には十分注意してください。
- ウレタン塗膜防水材の塗布後に降雨・降雪または夜露等の水気にさらされた場合や、塗継ぎ・増塗りおよびトップコートの塗布が接着可能時間を過ぎる場合は、次工程で塗布する材料との接着力低下を防止するために表面を良く清掃し、層間プライマーの塗布を行ってください。
- 風通しの悪い場所で施工する場合は防毒マスクの着用や換気装置の設置を行い、十分な安全対策を講じるとともに、材料の硬化状況にもご注意ください。
- 2成分形タイプの製品は、必ず主剤と硬化剤の組合せを守ってください、不具合の原因となります。
- ウレタン塗膜防水材の平場用と立上り用を混ぜて粘度調整する場合は、必ずそれぞれのウレタンを一度混合攪拌させてからミックスするように注意してください。
- 2成分形タイプの材料攪拌は、規定の配合比を守り攪拌機で行ってください。なお攪拌機はモーターの出力が大きく、かつ回転の遅いものを使用してください。回転が速いと気泡を巻き込み、ピンホールの発生や仕上りを悪くすることになります。
- ウレタン塗膜防水材を希釈する場合は、専用の希釈剤を規定量を守ってご使用ください。
- 冬季などでウレタン塗膜防水材の硬化を早める場合には、必ず専用の硬化促進剤を規定量を守ってご使用ください。
- 脱気装置を設置する際は、原則水上に設置してください。また脱気装置は金属製であるため、避雷導線は 1.5m 以上離して設置してください。
- アンカー類の穿孔は所定の穿孔径・穿孔深さを守り、垂直になるよう行ってください。また孔内および周辺の切粉は必ず除去してください。
- 小分けする場合は、必ずプレミキシングを行ってください。

### 〈共通事項（仕上り）〉

- 下地の不陸の影響により、仕上りが平滑にならない場合があります。とくに改修工事においては既設アスファルトルーフィングやシート防水材のラップジョイント部分の凸部が目立つ場合があります。
- 既存防水が外断熱工法の場合は熱による影響を受け通常より劣化が助長されるため、高反射系のトップコートを選定してください。
- 高反射系のトップコートは太陽光を効率よく反射させるため、ルーフィング等の居室付近での塗布は避けてください。
- 粗面仕上げにする場合は「粗面仕上材」「エストッ #20」「エストッ #40」のいずれかを添加してください。  
ただしいずれも防滑性能を保証するものではなく、降雨後などで水が防水層表面にある場合には滑ることがありますのでご注意ください。
- 粗面仕上げまたは無機質調仕上げのトップコートは表面に微細な凹凸ができるためホコリが滞留しやすくなります。
- 現場施工の特性上トップコートの仕上りは必ずしも均一になりません。
- 各種トップコートの艶消しタイプは製品特性や施工方法の影響により艶に差が生じる場合があります。
- 各種トップコートの「艶有り」「艶消し」は当社独自の呼称です。

### 〈通気緩衝工法〉 P.17 ~ 18.23

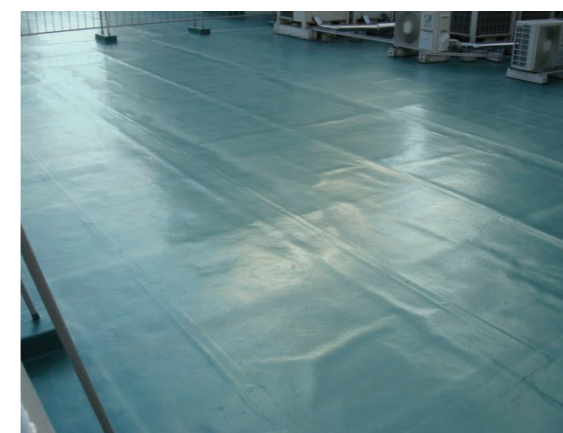
- 通気緩衝シートは強く引っ張ったり、無理に曲げないでください。
- シートジョイントの隙間は 2mm 以内にしてください。但し、「自着シート」については短手ジョイントの隙間は 2mm 以内、長手ジョイントの隙間については、3 ~ 5mm 程度離してください。
- 隣り合うシートの短手ジョイントを一直線状に揃えると、ウレタン塗膜防水材塗布後に破断することがありますので、300mm 以上ずらしてください。
- 通気緩衝シート張付け後は、浮きや皺を発生させないために必ず転圧ローラーで十分に転圧を行ってください。但し「自着シート」張付け後の転圧は、ハンドローラー等で行ってください。
- 「自着シート」を施工する場合は、プライマーの乾燥時間を確実に取ってください。乾燥時間が不足すると、裏面の改質アスファルトが融解し、通気性能の低下につながる恐れがあります。
- 通気緩衝シート上はスパイクシューズでの歩行を避けてください。シートが破ける恐れがあります。
- 通気緩衝シートの張付け後、ウレタン塗膜防水材の塗布工程が翌日以降になる場合は必ずシート端部およびジョイントの雨仕舞いを行ってください。雨仕舞いを行わず雨や夜露の影響を受けた場合、次工程の乾燥養生に時間がかかたり、膨れや剝離の原因となります。
- 新たに敷設した通気緩衝シートの上に材料を置く場合は、ベニヤ板等で養生を行いその上に置いてください。
- 補強布は通気緩衝シートとの重ね幅を 100mm 以上にしてください。

### 〈密着工法〉 P.21 ~ 23

- 補強布は重ね幅 50mm 以上で張付けてください。

### 〈機械的固定工法〉 P.19 ~ 20

- 下地状況や既存防水層の厚み等により、使用するアンカーの長さを選定してください。
- ALC 下地の場合はエポキシ樹脂等を使用するなど、必ず強度を出すようにしてください。
- CA マット G、CA マット SB 機械固定用は強く引っ張ったり、無理に曲げないでください。
- シートやテープが皺にならないように施工に注意してください。
- 隣り合うシートの短手ジョイントを一直線状に揃えると、ウレタン塗膜防水材塗布後に破断することがありますので、500mm 以上ずらしてください。
- 穿孔後の切粉はウレタン塗膜防水層との接着不良を起こす原因となりますので、掃除機等で必ず吸い取って除去してください。
- アンカーの固定強度だけでは不十分な箇所は、必要に応じてボンドを併用してシートを固定してください。
- ハードエッジドライブの施工時に過剰な締め付けをしないでください。必要以上に締め付けるとネジの折れや頭飛びをする恐れがあります。またインパクトドライバの最大トルク値は、ハードエッジドライブのねじり破断トルク値よりはるかに高いため「強力型」は用いず、トルク値には十分注意しながら低回転でゆっくりと施工してください。
- ランスロックキャント N や T ルーフプレート A 型は既存入隅部形状に合わせて選択してください。
- ランスロックキャント N や T ルーフプレート A 型は夏場の熱による膨張を加味し、隙間をつくって取り付けてください。（夏施工時：隙間 1mm、冬施工時：隙間 2mm）
- 機械的固定工法は全面接着と異なり、柔軟性の高い防水層をアンカーを用いて部分的に躯体コンクリートに連結する工法です。したがって防水層の表面にシワや段差が発生する場合があります。これは「膨れ」とは異なるため防水機能上に問題はありません。



シワの発生



断熱材の段差

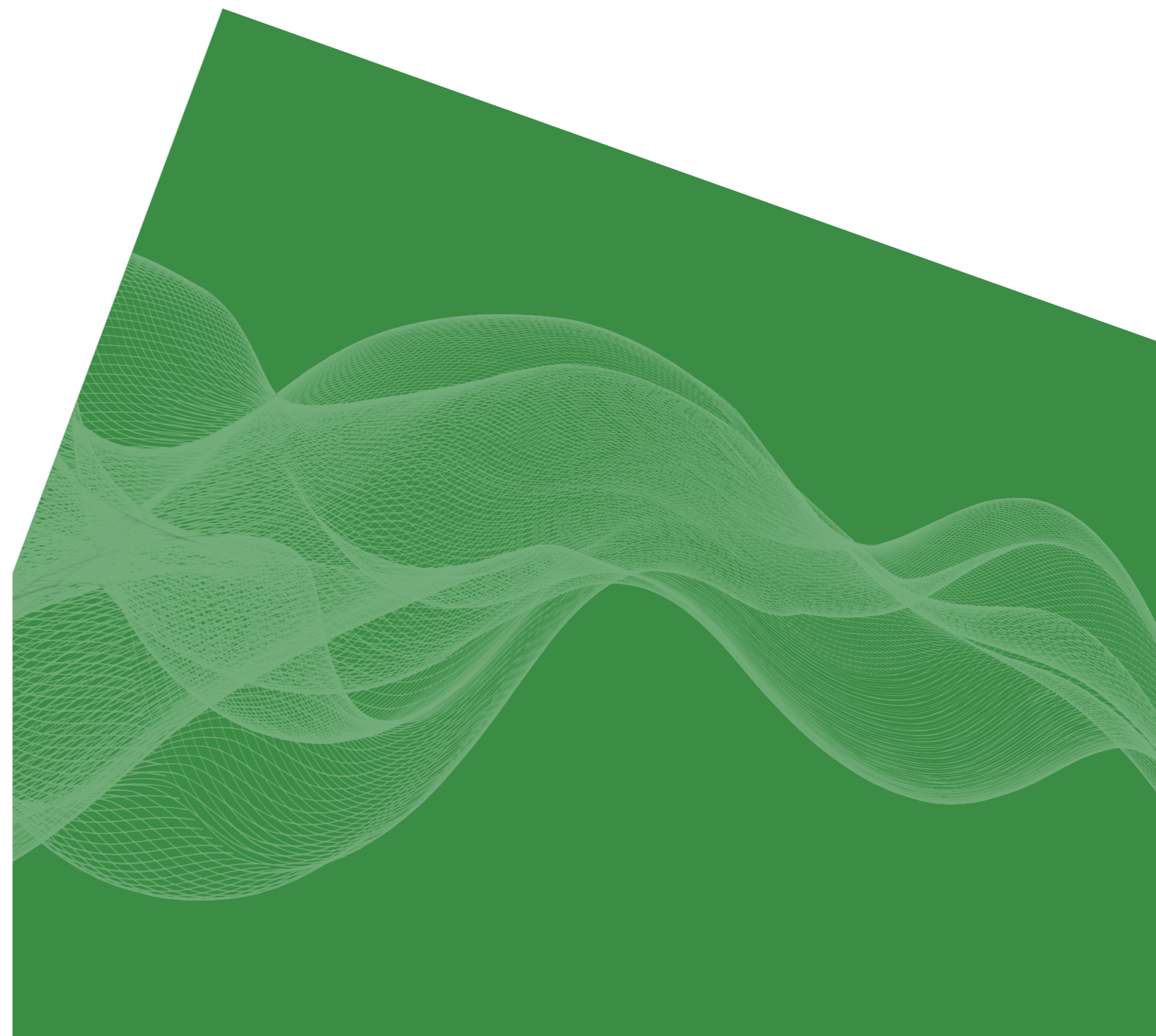
### 〈下地がウレタン塗膜防水材の場合の塗り重ね改修工法（オーバーレイ工法）〉 P.21

- 既存ウレタン塗膜防水層の種類や劣化状況によっては、ウレタン塗膜防水材の塗り重ね改修工法（オーバーレイ工法）を採用できない場合があります。



# 資料

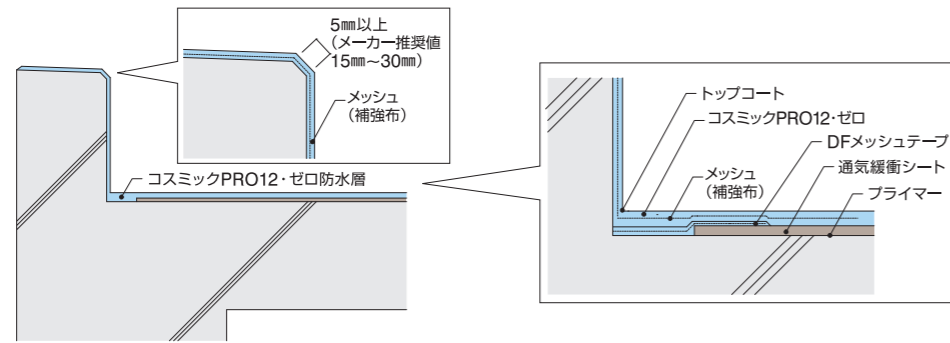
納まり図  
使用上の注意事項  
メンテナンス／保証  
消防法関連



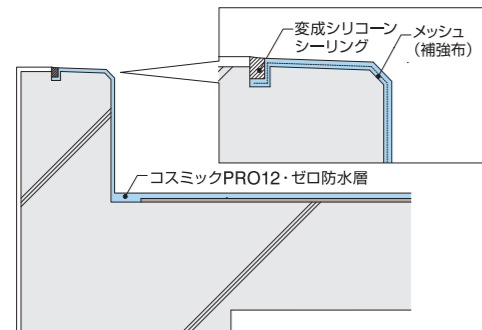
# 納まり図

ここに掲載する納まりは一般的な代表例です。  
現場の諸条件や下地の状況に応じた納まりの検討が必要となります。

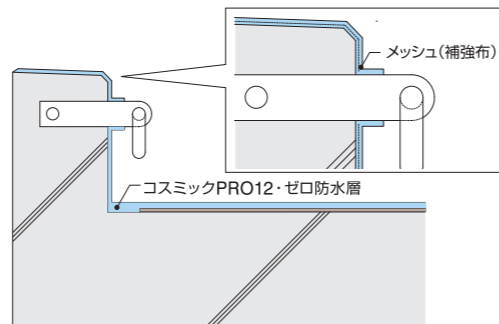
## パラペット



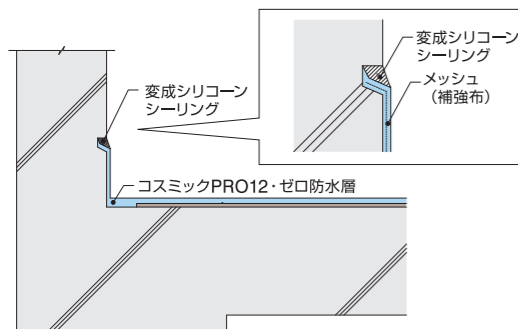
## パラペット タイル取り合い



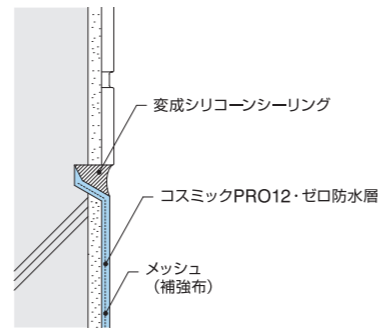
## パラペット 丸環まわり



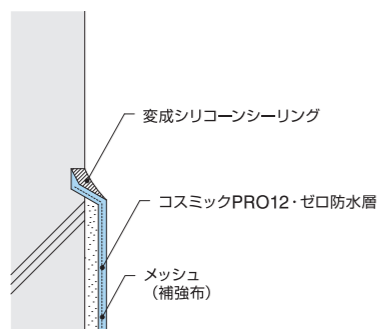
## 立上り 目地設置



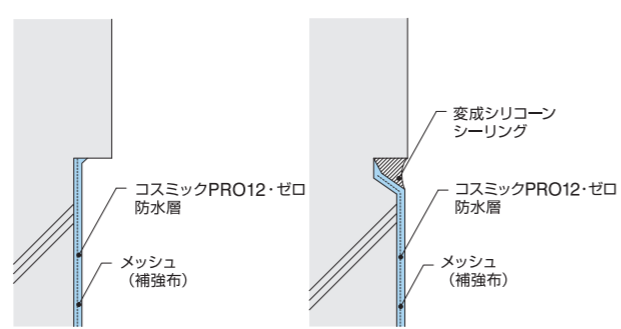
## タイル壁取り合い



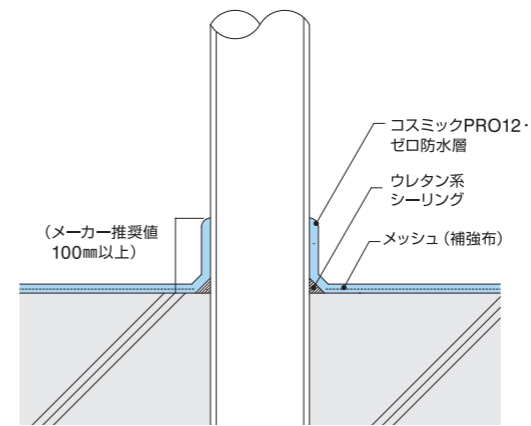
## 出巾木



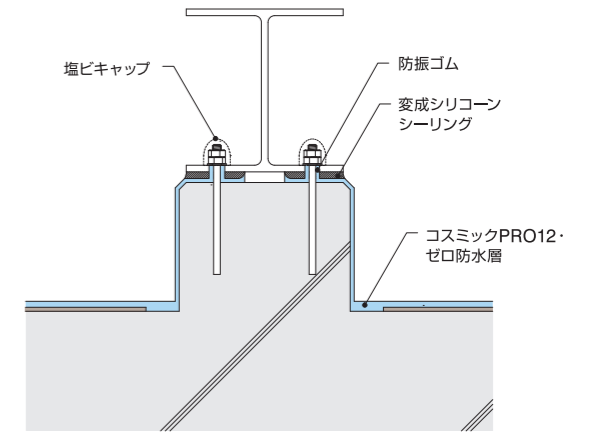
## 入巾木



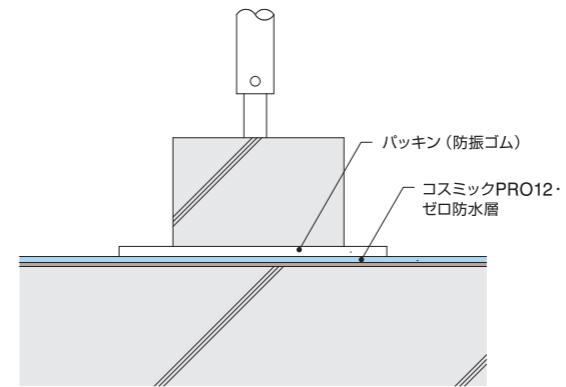
## 貫通パイプ



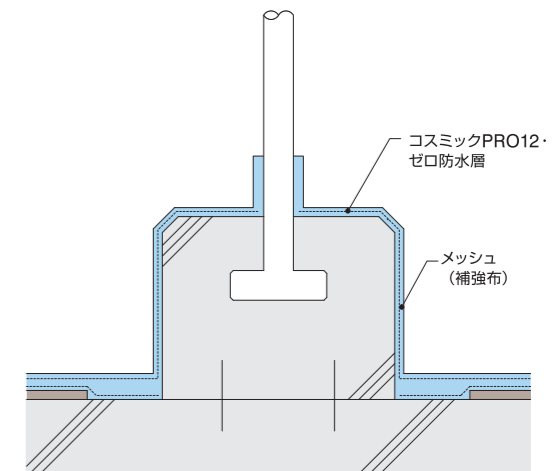
## 基礎架台



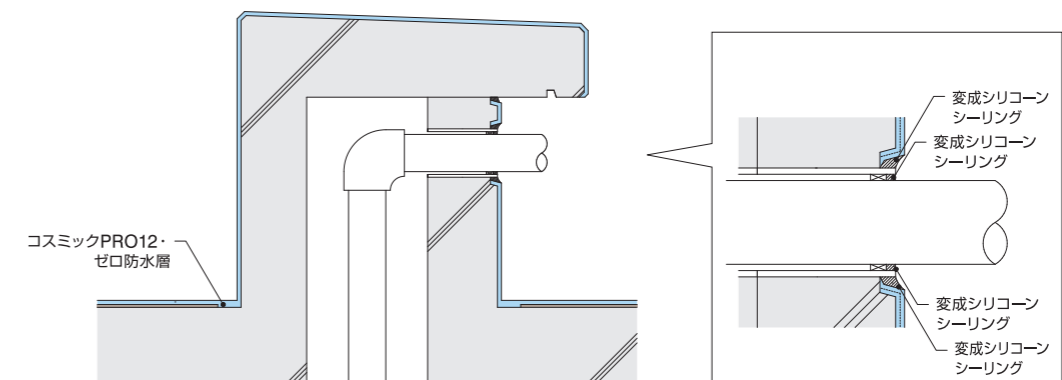
## 置基礎



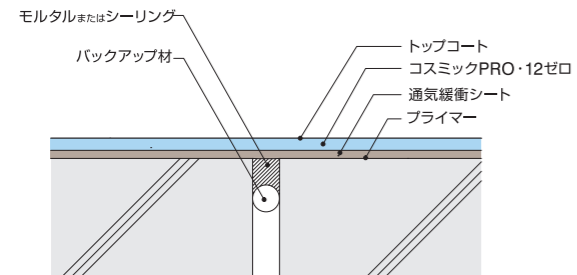
## フェンス基礎



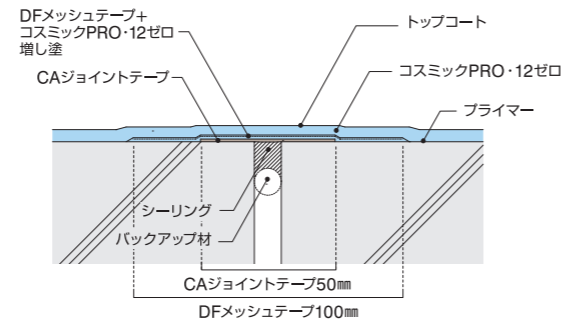
## ハト小屋



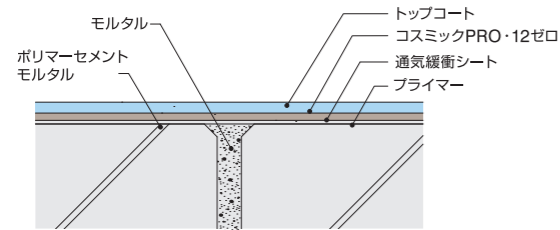
PCa板取り合い (通気緩衝工法の場合)



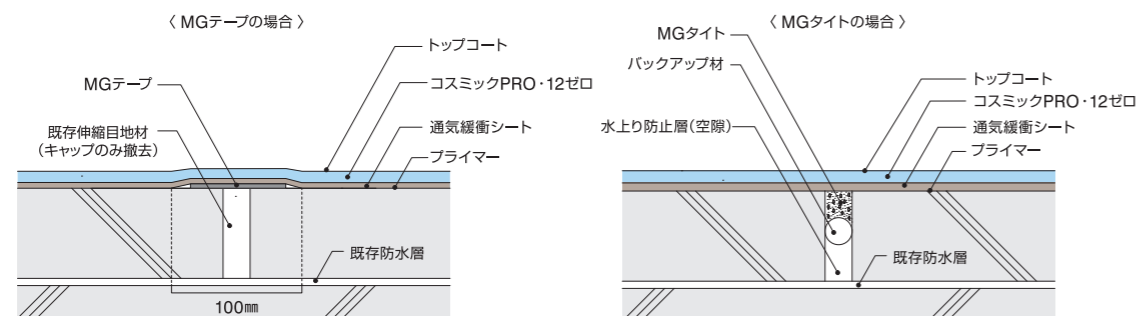
PCa板取り合い (密着工法の場合)



ALC板取り合い

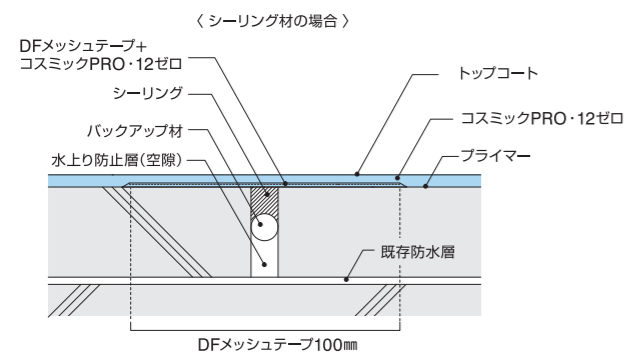


押えコンクリート伸縮目地部 (通気緩衝工法の場合)

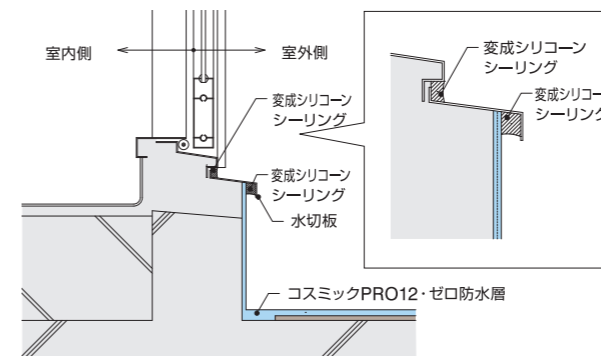


押えコンクリート伸縮目地部 (密着工法の場合)

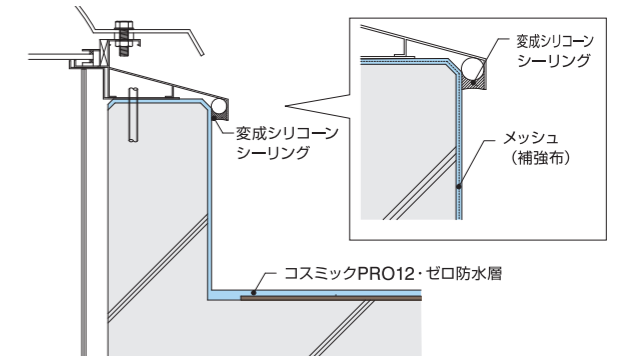
通気緩衝シートが適用できない場合



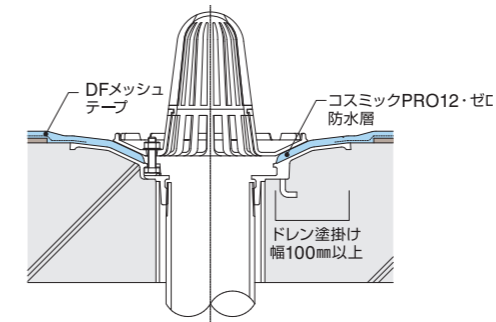
開口部



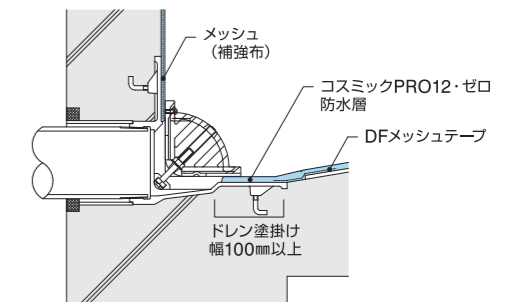
トップライト



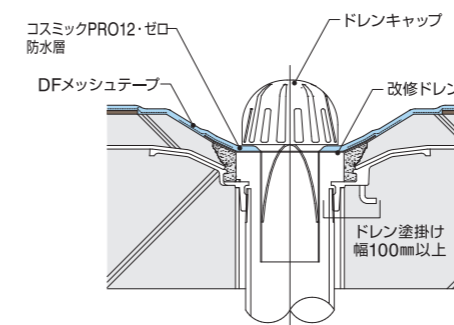
縦型ドレン



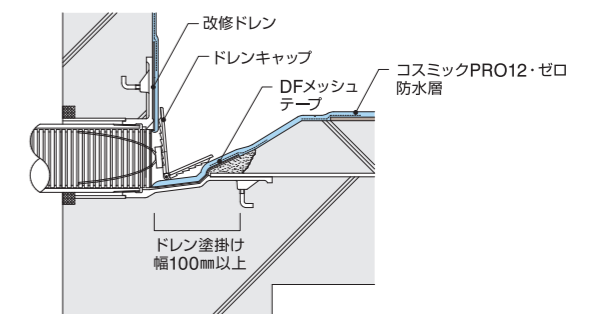
横型ドレン



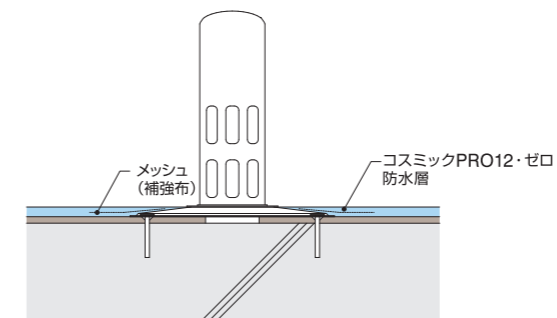
LF改修ドレンU タテ型



LF改修ドレンU ヨコ型



ステンレスベントN

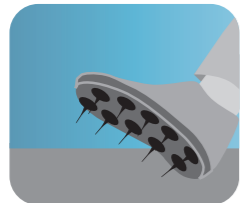


# 使用上の注意事項／メンテナンス／保証

## 使用上の注意事項

防水施工後の使用について注意事項が記載されています。コピーの上、建物管理者様にお渡しください。

### ■ 次の行為は避けてください。(禁止事項)



スパイクシューズ等接地面の鋭利な履き物で歩行しないでください。



防水層は可燃性なので、火気を使用しないでください。(タバコや花火等)

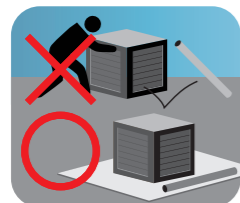


溶剤、ガンリン、不凍液等溶解力のある液剤をこぼさないでください。

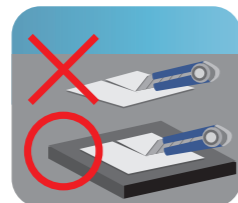


防水層を損傷してしまうため、ゴルフの練習等は行わないでください。

### ■ 次の場合は対策を打ってください。(対策必要事項)



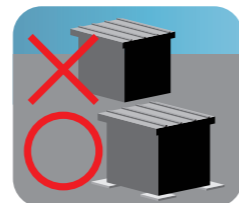
重量物を引きずったり、鉄パイプ等角の鋭利な物を落とさないでください。



カッターナイフ等鋭利な物で作業する際は合板等で十分養生し、防水層を傷付けないようにしてください。



接地面にパイプ状のイスやテーブルを置く場合は、脚先をゴムキャップ等でカバーしてください。



角のある物を置く場合は、間にゴム板等を敷いて養生してください。

### ■ 次の点には注意してください。(注意事項)



表面が濡れていると滑りやすいので、雨天および降雨後の歩行は注意してください。



クーリングタワーの防藻剤や殺菌剤の種類によっては、防水層を痛める恐れがあるため、薬剤メーカーに確認の上で使用ください。



防水層を清掃する際は、中性洗剤以外は使用しないでください。モップ等のやわらかい清掃用具で行ってください。

植木鉢を置く場合は鉢下に水が溜らぬよう設置してください。長時間の水溜りは防水層の劣化を促します。

設備工事の際、設置の都合で防水層を切断したり、あるいは傷付けて漏水事故につながるケースは少なくありません。設備工事や増設工事を実施される場合は、施工業者あるいは弊社にご相談ください。

防水層の上で犬や猫などのペットを飼わないでください。

## 定期的なメンテナンス・点検のお願い

防水層を良好に維持することが建物を長持ちさせるポイントです。ここでは、建物を管理される方におすすめの維持管理の方法をご紹介します。

### ■ 定期的にドレンを清掃してください。目安 2回以上/年

飛来した砂塵や枯葉がドレンに詰まってプール状になることがありますが、この状態で放置しておくと防水層の劣化を促進させてしまいます。お客様にとって大切な資産だからこそ、定期的な清掃をおすすめします。立地環境により一概には言えませんが、梅雨前の6月、枯葉が飛来する11月に確認するのがよいでしょう。ただし、建物の周辺に公園や田畑がある場合は飛来物が多量になるため、お客様の建物に合わせて清掃回数を増やしてください。



### ■ 定期的に防水層の状態を確認してください。目安 1回以上/年

防水層の定期点検は、人間に例えると定期検診と同じです。定期的に健康状態を確認し、万一、病気がかかっている場合でも早期発見・早期治療で健康を確保できます。定期清掃に合わせて、次のポイントをお確かめください。

- 防水層に破断が生じていないか。
- 防水層の端末が剥がれていないか。
- 防水層にフクレが生じていないか。
- シーリングの口開きが生じていないか。
- トップコートが消失していないか。

万一、不具合が発見された場合は、営業担当までご連絡ください。お電話で内容を確認させていただいた上、必要に応じて点検員がお伺いいたします。



## ■ 防水保証の考え方

- 施工に起因する場合は、工事を請け負った元請業者ならびに施工業者の責任とします。
- 材料品質に起因する場合は、材料製造業者の責任とします。
- 但し、次の場合は免責とします。
  1. 天災地変、火災、爆発、飛来物、地盤の変動等、その他の不可抗力による場合。
  2. 使用者が善良な管理者としての管理維持を行わなかった場合、また契約時の使用目的と異なる使用方法を採った場合。
  3. 防水施工業者以外の作業員による作業によって生じた場合、または火災、爆発、飛来物等防水施工業者側に原因せぬことが明らかである場合。
  4. 発注者が防水施工業者の提案を拒否して採用させた設計、施工方法、資材等による工事の場合。
  5. 故障部分について、防水施工業者(防水施工業者が認めた業者を含む)以外の者が補修を行った後に生じた場合。
  6. 故障の原因究明が、通常の方法によっては困難と認められる場合。
- P.37「使用上の注意事項」を守らず、それが原因で生じた漏水事故については、責任を負いかねますので、ご注意ください。
- 防水保証の詳細については当社営業にお問合せください。

## ■ 防水層のメンテナンスについて

防水層は紫外線の影響により劣化進行します。早めの改修対策により経済的に防水層を維持することができます。参考に防水層の劣化のしかたと劣化度を示します。

〈 防水層の劣化のしかたと劣化度 〉

劣化度1	劣化度2	劣化度3
<p>トップコートの表面が紫外線劣化により白亜化。</p> <p>防水層の保護塗料であるトップコートがその機能を発揮することで、トップコート表面が粉化する現象。劣化の初期症状といえますが、ひび割れもしくは磨耗にてウレタン層が露出するまでは防水機能に大きな影響はありません。</p>	<p>表面のトップコートに微細な亀裂が発生。</p> <p>防水層の劣化が急激に進行するシグナルともいえる時期です。この段階でのメンテナンスは、トップコート塗替えによる延命処置も行えますし、最も経済的な改修である「オーバーレイ改修(塗重ね改修)」も行えます。</p>	<p>亀裂幅が広がり亀裂の数も増加。</p> <p>ウレタン層が露出し、防水層の劣化が急激に進行する時期です。この段階でのメンテナンスは、トップコート塗替えによる延命処置も行えますし、最も経済的な改修である「オーバーレイ改修(塗重ね改修)」も行えます。</p>

劣化度4	劣化度5	劣化度6
<p>トップコートが磨耗してウレタン層が露出。</p> <p>ウレタン層が露出し、防水層の劣化が急激に進行する時期です。この段階でのメンテナンスは、トップコート塗替えによる延命処置も行えますし、最も経済的な改修である「オーバーレイ改修(塗重ね改修)」も行えます。</p>	<p>トップコートが消失し、ウレタン層の紫外線劣化が進行してクレーター状に。</p> <p>ウレタン層が露出し、防水層の劣化が急激に進行する時期です。この段階でのメンテナンスは、トップコート塗替えによる延命処置も行えますし、最も経済的な改修である「オーバーレイ改修(塗重ね改修)」も行えます。</p>	<p>ウレタン層が消失し、通気緩衝シートが露出。</p> <p>この症状が床面積の高割合を占めるとオーバーレイ改修が不可能です。機械的固定工法あるいは既存防水撤去後に改修することになります。</p>

# 消 防 法 関 連

## ■ 消防法における危険物の取り扱いについて

- 指定数量以上の危険物を作業現場で臨時に貯蔵したり取り扱う場合には、所轄の消防本部または消防署長に、また消防本部等のない市町村では市町村長に申請して、仮貯蔵や取扱いの承認を受ける必要があります。
- 危険物品名を異にする2以上の危険物を同一の場所で貯蔵したり取り扱う場合にも、品名ごとの数量をそれぞれの指定数量で除して、その商の和が1以上になるときは、指定数量以上危険物を貯蔵し、または取り扱っているものとみなされます。
- 危険物品名を異にする2以上の危険物の貯蔵も、類別毎にまとめて、それぞれ1m以上の間隔を置けば同時に貯蔵することができます。
- 指定数量の1/5以上、1未満の危険物の貯蔵取扱いは、市町村の火災予防条例により規制の対象となるため、所轄の消防署に届け出る必要があります。
- 指定可燃物とは、「わら製品、木毛その他の物品で火災が発生した場合にその拡大が速やかであり、又は消化の活動が著しく困難となるものとして政令で定めるもの」をいいます。
- 指定可燃物が指定数量1以上の場合には、市町村条例により、所轄の消防本部または消防署長に届け出る必要があります。

第4類(引火性液体)および指定可燃物の品名と指定数量

種 別	指定数量
第4類 第1石油類	200リットル (非水溶性)
	400リットル (水溶性)
第4類 第2石油類	1,000リットル (非水溶性)
	2,000リットル (水溶性)
第4類 第3石油類	2,000リットル (非水溶性)
	4,000リットル (水溶性)
第4類 第4石油類	6,000リットル

### 〈 危険物の計算例 〉

PSG-20 ゼロ工法・1,000㎡相当で使用する材料を施工現場にて貯蔵する場合

(1) 材料積算にて各使用材料の数量(缶)を出した後、下記のようにそれぞれの貯蔵量(ℓ)を算出します。

使用材料	区分	数量(缶)	入目(kg) ①	液比重 ②	貯蔵量(ℓ) 数量×①÷②
コスミック・プライマー U	第4類 第2石油類 非水溶性	10	16	1.0	160
コスミックPRO12・ゼロ	主剤 第4類 第4石油類	97	9	1.0	873
	硬化剤 指定可燃物 可燃性液体	97	18	1.6	1,091
DSトップ・ゼロ	主剤 第4類 第2石油類 非水溶性	14	6	0.9	93
	硬化剤 第4類 第2石油類 非水溶性	14	9	1.2	105
US環境キヤク剤(添加量5%として)	第4類 第1石油類 非水溶性	11	12	0.8	165

(2) 上記(1)の貯蔵量(ℓ)を危険物区分ごとにまとめ、それぞれの指定数量で除した(割り算)数値の合計を算出します。合計の数値が「1以上」である時は指定数量以上の危険物を貯蔵し、または扱っているものとみなされます。

第4類 第1石油類 非水溶性	165 ÷ 200 = 0.825
第4類 第2石油類 非水溶性	358 ÷ 1,000 = 0.358
第4類 第4石油類	873 ÷ 6,000 = 0.146
合計	1.329

上記の例では指定数量の合計が「1以上」となるため、指定数量以上の危険物の貯蔵となります。  
指定数量以上の貯蔵・取扱いは甲種または乙種危険物取扱者を任命し、危険物の取扱いに関し保安監督させる必要があります。  
※詳細については、所轄の消防本部または消防署長にご確認ください。

## ■ 消防法区分・特化則対象一覧

製品名	入目(kg) ①		消防法関係		特化則対象	
	通常	小型	危険物区分	液比重 ②		
コスミックPRO12・ゼロ	主剤	9	6	第4類第4石油類	1.0	対象外
	硬化剤	18	12	指定可燃物	1.6	
コスミックPRO・ゼロ立上り用	主剤	6	—	第4類第4石油類	1.0	対象外
	硬化剤	12	—	指定可燃物	1.7	
コスミックPRO・ゼロ中粘度タイプ	主剤	6	—	第4類第4石油類	1.0	対象外
	硬化剤	12	—	指定可燃物	1.8	
コスミック・プライマー U		16	—	第4類第2石油類 非水溶性	1.0	対象外
コスミック・プライマー E		14	—	第4類第2石油類 非水溶性	0.9	対象外
コスミック・エコプライマー	主剤	8	—	非危険物	1.1	対象外
	硬化剤	8	—	非危険物	1.0	
コスミック・プライマー P		16	—	第4類第1石油類 非水溶性	1.0	室内工事は対象(エチルベンゼン)
コスミック・プライマー EP	主剤	6	—	第4類第1石油類 非水溶性	1.0	室内工事は対象 (主剤：エチルベンゼン)
	硬化剤	6	—	第4類第1石油類 非水溶性	0.9	
コスミック・プライマー 200	主剤	6	—	第4類第1石油類 非水溶性	1.0	対象外
	硬化剤	6	—	第4類第1石油類 非水溶性	0.9	
コスミック・プライマー 300		15	—	第4類第1石油類 非水溶性	0.9	対象外
FUプライマー	主剤	4	—	第4類第1石油類 非水溶性	0.8	室内工事は対象 (硬化剤：スチレン)
	硬化剤	4	—	第4類第1石油類 非水溶性	0.9	
ダイナベース		20	—	第4類第2石油類 非水溶性	1.6	室内工事は対象(エチルベンゼン)
W-1	主剤	10	—	第4類第1石油類 非水溶性	1.0	室内工事は対象 (主剤：エチルベンゼン)
	硬化剤	10	—	第4類第1石油類 非水溶性	0.9	
DSトップ・ゼロ	主剤	6	—	第4類第2石油類 非水溶性	0.9	対象外
	硬化剤	9	—	第4類第2石油類 非水溶性	1.2	
ASトップ・ゼロ	主剤	6	—	第4類第2石油類 非水溶性	0.9	対象外
	硬化剤	9	—	第4類第2石油類 非水溶性	1.2	
フッ素スーパートップ・ゼロ	主剤	4	—	第4類第2石油類 非水溶性	0.9	対象外
	硬化剤	6	—	第4類第2石油類 非水溶性	1.2	
ACトップアクア	主剤	1	—	指定可燃物	1.1	対象外
	硬化剤	10	—	非危険物	1.1	
SQトップ・ゼロ	主剤	6	—	第4類第2石油類 非水溶性	0.9	対象外
	硬化剤	9	—	第4類第2石油類 非水溶性	1.2	
HGコート		20	—	非危険物	1.5	対象外
ソクシン剤(環境配慮対応タイプ)		17	1	第4類第2石油類 非水溶性	1.0	対象外
US環境希釈剤		12	—	第4類第1石油類 非水溶性	0.8	対象外
マット、クロス、テープ類	消防法の危険物に該当しません。					

※上記の数値は予告なく変更する場合がございます。必ず最新版のSDSをご確認ください。

■ 各製品規則・基準・ガイドライン等適合一覧

製品名	特化則 非該当	有機則 非該当	学校環境衛生 基準 6 物質を 含まない	厚労省 13 物質を 含まない	脱 TX	ホルムアルデヒド 放散等級	鉛化合物質を 含まない
プライマー類	コスミック・プライマー P	×	×	×	×	○	○
	コスミック・プライマー EP	×	×	×	×	○	○
	コスミック・プライマー U	○	○	○	○	○	○
	コスミック・エコプライマー	○	○	○	○	○	○
	コスミック・プライマー 200	○	×	○	○	○	○
	コスミック・プライマー 300	○	×	×	×	○	○
	コスミック・プライマー E	○	○	○	○	○	○
	FUプライマー	○	×	×	×	○	○
	W-1	×	×	×	×	○	○
	ダイナベース	×	×	×	×	×	○
トップコート類	DSトップ・ゼロ	○	○	○	○	○	○
	ASトップ・ゼロ	○	○	○	○	○	○
	フッ素スーパートップ・ゼロ	○	○	○	○	○	○
	SQトップ・ゼロ	○	○	○	○	○	○
	ACトップアクア	○	○	○	○	○	○
	HGコート	○	○	○	○	○	○
ウレタン類	コスミック PRO12・ゼロ	○	○	○	○	○	×
	コスミック PRO・ゼロ立上り用	○	○	○	○	○	×
	コスミック PRO・ゼロ中粘度タイプ	○	○	○	○	○	×
キシャク剤類	US 環境キシャク剤	×	×	×	×	○	○
	ソクシン剤(環境配慮対応タイプ)	○	○	○	○	○	○

# 製品情報

ウレタン塗膜防水材  
 プライマー、トップコート  
 トップコート関連製品  
 通気緩衝シート、テープ  
 メッシュ・クロス/金物/その他  
 シーリング材、改修ドレン  
 脱気装置、下地処理材、  
 製品一覧

# 製品情報

## ウレタン塗膜防水材料

労働安全衛生法 特定化学物質障害予防規則（特化則）の対象物質である、下記2物質を無配合のウレタン塗膜防水材料です。

『TDI（トリレンジイソシアネート）／一般的に主剤に配合』『MOCA（3,3-ジクロロ-4,4-ジアミノフェニルメタン）／一般的に硬化剤に配合』

さらに、従来の環境対応型ウレタン塗膜防水材料同様にシックハウス症候群誘発物質として規制対象となっているトルエンやキシレンを含む14物質を配合していません。

### コスミックPRO12・ゼロ F☆☆☆☆ NUK-F16934

概要：特定化学物質無配合2成分形ウレタン塗膜防水材料  
 入目：27kg/セット（主剤9kg：硬化剤18kg）  
 18kg/セット（主剤6kg：硬化剤12kg）  
 混合比：主剤：硬化剤=1：2（重量比）  
 JIS A 6021 屋根用ウレタンゴム系高伸形 認証品



外観	主 剤：淡黄色液体 硬化剤：着色液体（ライトグレー）	
硬化物比重	1.3	
使用可能時間	5～15℃	30～50分
	15～25℃	30～40分
	25～35℃	20～30分
乾燥時間	5～15℃	22～28時間
	15～25℃	13～22時間
	25～35℃	10～13時間
接着可能時間	5～15℃	7日間
	15～25℃	7日間
	25～35℃	5日間

### コスミックPRO・ゼロ立上り用 F☆☆☆☆ NUK-F16935

概要：特定化学物質無配合2成分形ウレタン塗膜防水材料  
 入目：18kg/セット（主剤6kg：硬化剤12kg）  
 混合比：主剤：硬化剤=1：2（重量比）  
 JIS A 6021 屋根用ウレタンゴム系高伸形 認証品



外観	主 剤：淡黄色液体 硬化剤：着色ペースト（ライトグレー）	
硬化物比重	1.5	
使用可能時間	5～15℃	30～45分
	15～25℃	30～45分
	25～35℃	20～30分
乾燥時間	5～15℃	18～36時間
	15～25℃	18～24時間
	25～35℃	16～20時間
接着可能時間	5～15℃	7日間
	15～25℃	7日間
	25～35℃	5日間

### コスミックPRO・ゼロ中粘度タイプ F☆☆☆☆ NUK-F17986

概要：特定化学物質無配合2成分形ウレタン塗膜防水材料  
 入目：18kg/セット（主剤6kg：硬化剤12kg）  
 混合比：主剤：硬化剤=1：2（重量比）  
 JIS A 6021 屋根用ウレタンゴム系高伸形 認証品



外観	主 剤：淡黄色液体 硬化剤：着色ペースト（ライトグレー）	
硬化物比重	1.4	
使用可能時間	5～15℃	30～45分
	15～25℃	30～45分
	25～35℃	20～30分
乾燥時間	5～15℃	22～36時間
	15～25℃	18～24時間
	25～35℃	16～20時間
接着可能時間	5～15℃	7日間
	15～25℃	7日間
	25～35℃	5日間

### US環境キシャク剤 F☆☆☆☆ NUK-F17996

概要：環境対応型ウレタン塗膜防水材料用希釈剤  
 入目：12kg/缶  
 混合比：季節やタイプにかかわらず上限は5%です。



### ソクシン剤（環境配慮対応タイプ）

概要：環境 対応型2成分形ウレタン塗膜防水材料用促進剤  
 荷 姿：1kg/缶、17kg/缶  
 添加量：夏用を春秋に使用する場合の目安：ウレタンの重量に対し0.3%  
 春秋用を冬に使用する場合の目安：ウレタンの重量に対し0.3%



添加量を超えての使用は、物性の低下を招きますので、添加量の上限は必ず守ってください。

添加目安は0.3%です。過剰添加しても硬化時間は早くなりませんのでご注意ください。

添加量計算例

	促進剤	0.3%
ウレタン		
27kg		81g
18kg		54g

プライマー

コスミック・プライマーP 溶剤系 F☆☆☆☆ NUK-F06086

概要：1成分形ウレタン樹脂プライマー  
用途：コンクリート・モルタル下地用プライマー  
入目：16kg/缶  
塗布量：0.15~kg/m<sup>2</sup>



使用可能時間	5~15℃	—
	15~25℃	—
	25~35℃	—
乾燥時間	5~15℃	2.5時間
	15~25℃	1時間
	25~35℃	0.5時間
接着可能時間	5~15℃	1日以内
	15~25℃	1日以内
	25~35℃	1日以内
接着可能時間を超えた場合の処理		研磨の上再塗布します

コスミック・プライマーEP 溶剤系

概要：2成分形エポキシ樹脂プライマー  
用途：コンクリート・モルタル及び金属下地用プライマー  
入目：12kg/セット（主剤：6kg 硬化剤：6kg）  
塗布量：0.15~kg/m<sup>2</sup>



使用可能時間	5~15℃	3時間
	15~25℃	3時間
	25~35℃	2時間
乾燥時間	5~15℃	4時間
	15~25℃	2時間
	25~35℃	1時間
接着可能時間	5~15℃	2日以内
	15~25℃	2日以内
	25~35℃	2日以内
接着可能時間を超えた場合の処理		研磨の上再塗布します。セメントを25%配合することでリコート可能ですが、乾燥時間は1.5倍程度になります。

コスミック・プライマーU 弱溶剤系 F☆☆☆☆ NUK-F10557

概要：1成分形ウレタン樹脂プライマー  
用途：コンクリート・モルタル下地用プライマー  
入目：16kg/缶  
塗布量：0.15~kg/m<sup>2</sup>



使用可能時間	5~15℃	—
	15~25℃	—
	25~35℃	—
乾燥時間	5~15℃	3時間
	15~25℃	1.5時間
	25~35℃	1時間
接着可能時間	5~15℃	2日以内
	15~25℃	2日以内
	25~35℃	2日以内
接着可能時間を超えた場合の処理		研磨の上再塗布します

コスミック・エコプライマー 水系 F☆☆☆☆ NUK-F08314

概要：2成分形エポキシ樹脂プライマー  
用途：コンクリート・モルタル及びゴムシート下地用プライマー  
入目：16kg/缶（主剤：8kg 硬化剤：8kg）  
塗布量：0.15~kg/m<sup>2</sup>



使用可能時間	5~15℃	6時間
	15~25℃	4時間
	25~35℃	3時間
乾燥時間	5~15℃	3時間
	15~25℃	1.5時間
	25~35℃	1時間
接着可能時間	5~15℃	2日以内
	15~25℃	2日以内
	25~35℃	2日以内
接着可能時間を超えた場合の処理		研磨の上再塗布します

コスミック・プライマー200 溶剤系 F☆☆☆☆ NUK-F10588

概要：2成分形ウレタン樹脂プライマー  
用途：ウレタン下地用プライマー  
入目：12kg/セット（主剤：6kg 硬化剤：6kg）  
塗布量：0.1kg/m<sup>2</sup>



使用可能時間	5~15℃	4時間
	15~25℃	2時間
	25~35℃	1時間
乾燥時間	5~15℃	2時間
	15~25℃	1時間
	25~35℃	0.5時間
接着可能時間	5~15℃	12時間以内
	15~25℃	12時間以内
	25~35℃	12時間以内
接着可能時間を超えた場合の処理		研磨の上再塗布します

コスミック・プライマー300 溶剤系 F☆☆☆☆ NUK-F10591

概要：1成分形ウレタン樹脂プライマー  
用途：ウレタン下地用プライマー  
入目：15kg/缶  
塗布量：0.1kg/m<sup>2</sup>



使用可能時間	5~15℃	—
	15~25℃	—
	25~35℃	—
乾燥時間	5~15℃	2時間
	15~25℃	1.5時間
	25~35℃	1時間
接着可能時間	5~15℃	12時間以内
	15~25℃	12時間以内
	25~35℃	12時間以内
接着可能時間を超えた場合の処理		研磨の上再塗布します

コスミック・プライマーE 弱溶剤系 F☆☆☆☆ NUK-F09440

概要：1成分形ウレタン樹脂プライマー  
用途：ウレタン及び塩化ビニル樹脂下地用プライマー  
入目：14kg/缶  
塗布量：0.1kg/m<sup>2</sup>



使用可能時間	5~15℃	—
	15~25℃	—
	25~35℃	—
乾燥時間	5~15℃	4時間
	15~25℃	2時間
	25~35℃	1.5時間
接着可能時間	5~15℃	1日以内
	15~25℃	1日以内
	25~35℃	12時間以内
接着可能時間を超えた場合の処理		研磨の上再塗布します

FUプライマー 溶剤系 F☆☆☆☆ NUK-F17998

概要：2成分形ウレタンポリエステル樹脂プライマー  
用途：ポリエステル樹脂トップコート下地用プライマー  
入目：8kg/セット（主剤：4kg 硬化剤：4kg）  
塗布量：0.1kg/m<sup>2</sup>



使用可能時間	5~15℃	1.5時間
	15~25℃	1時間
	25~35℃	0.5時間
乾燥時間	5~15℃	1時間
	15~25℃	1時間
	25~35℃	0.5時間
接着可能時間	5~15℃	6時間
	15~25℃	4時間
	25~35℃	2時間
接着可能時間を超えた場合の処理		研磨の上再塗布します

## プライマー

### ダイナベース 溶剤系 F☆☆☆☆ NUK-F17999

概要：1成分形アスファルト活性化剤  
 用途：砂付きアスファルト下地活性化剤（CAマットG、CAマットSB）  
 入目：20kg/缶  
 塗布量：0.8～1.2kg/㎡

使用可能時間	5～15℃	—
	15～25℃	—
	25～35℃	—
乾燥時間	5～15℃	48時間
	15～25℃	24時間
	25～35℃	24時間



### ■下地への適合一覧

	コスミック・プライマー P (溶剤系)	コスミック・プライマー EP (溶剤系)	コスミック・プライマー U (弱溶剤系)	コスミック・エコプライマー (水系)	コスミック・プライマー 200 (溶剤系)	コスミック・プライマー 300 (溶剤系)	コスミック・プライマー E (弱溶剤系)	FUプライマー (溶剤系)	ダイナベース (溶剤系)
コンクリート/モルタル	○	○	○	○	×	×	×	×	×
金属	鉄	×	○	×	×	×	×	×	×
	ステンレス	×	○	×	×	×	×	×	×
	アルミニウム	×	○	×	×	×	×	×	×
	鉛	×	○	×	×	×	×	×	×
	亜鉛	×	○	×	×	×	×	×	×
	銅	×	×	×	×	×	×	×	×
	熔融亜鉛メッキ銅版	×	△	×	×	×	×	×	×
	焼付けフッ素鋼板	×	×	×	×	×	×	×	×
	ウレタン	×	×	×	×	○	○	×	×
塩化ビニルシート/VP管	×	×	×	×	×	×	○	×	
ゴムシート	×	×	×	●	×	×	×	×	
FRP	×	△	×	×	×	×	●	×	
砂付きアスファルト	×	×	×	×	×	×	×	○	

× (注)：脱気筒やドレン等、部分的にウレタン塗膜防水層が掛かる範囲内に限って可。  
 △：下地の目荒し処理の後、接着試験を行なってください。  
 ●：事前に接着試験を行なってください。  
 ○：可。ただし下地の状態が健全であること。(P.27～30の防水施工条件を参照してください。)

トップコート

DSトップ・ゼロ 弱溶剤系 F☆☆☆☆ NUK-F231264

概要: 2成分形アクリルウレタン樹脂トップコート  
弱溶剤系  
入目: 15kg/セット (主剤: 6kg 硬化剤: 9kg)  
塗布量: 0.2kg/m<sup>2</sup>



色バリエーション	
一般色 (常備品)	No.12 グレー
	No.70 ライトグレー
	No.44 SP グリーン
一般色 (受注生産品)	No.15 グリーン
	No.17 タンブラウン
	No.96 ブラウン
	No.97 ライトブラウン
高反射色 (受注生産品)	高反射色 No.100 ライトグレー
	高反射色 No.200 ミントグリーン

※一般色は艶消しタイプと艶有りタイプがあります。  
※一般色は特注色対応可能。  
※艶有りタイプは全色受注生産品です。

遮熱タイプ (高反射色) の有無		有り
使用可能時間	5 ~ 15℃	8 時間
	15 ~ 25℃	5 時間
	25 ~ 35℃	3 時間
乾燥時間	5 ~ 15℃	16 時間
	15 ~ 25℃	8 時間
	25 ~ 35℃	5 時間
接着可能時間	5 ~ 15℃	7 日間
	15 ~ 25℃	7 日間
	25 ~ 35℃	7 日間
塗重ね時など接着可能時間を越えた場合の処理		層間プライマーを塗布します。
ホルムアルデヒド放散等級区分及び登録番号		F☆☆☆☆ NUK-F12688

SQトップ・ゼロ 弱溶剤系 F☆☆☆☆ NUK-F231264

概要: 2成分形アクリルウレタン樹脂トップコート  
速乾タイプ  
入目: 15kg/セット (主剤: 6kg 硬化剤: 9kg)  
塗布量: 0.2kg/m<sup>2</sup>



色バリエーション	
一般色 (受注生産品)	No.12 グレー
	No.70 ライトグレー
	No.44 SP グリーン
高反射色 (受注生産品)	高反射色 No.100 ライトグレー
	高反射色 No.200 ミントグリーン

※一般色は艶消しタイプと艶有りタイプがあります。  
※一般色は特注色対応可能。

使用可能時間	5 ~ 15℃	4 時間
	15 ~ 25℃	3 時間
	25 ~ 35℃	2 時間
乾燥時間	5 ~ 15℃	6 時間
	15 ~ 25℃	4 時間
	25 ~ 35℃	2 時間
接着可能時間	5 ~ 15℃	7 日間
	15 ~ 25℃	7 日間
	25 ~ 35℃	7 日間
接着可能時間を越えた場合の処理		コスミック・プライマー E を塗布します。

ASトップ・ゼロ 弱溶剤系 F☆☆☆☆ NUK-F12706

旧名称: コスミック・ゼロトップ AS  
概要: 2成分形アクリルシリコン樹脂トップコート  
入目: 15kg/セット (主剤: 6kg 硬化剤: 9kg)  
塗布量: 0.2kg/m<sup>2</sup>



色バリエーション	
一般色 (受注生産品)	No.12 グレー
	No.70 ライトグレー
	No.44 SP グリーン
	No.15 グリーン
	No.17 タンブラウン
	No.96 ブラウン
高反射色 (受注生産品)	No.97 ライトブラウン
	高反射色 No.100 ライトグレー
	高反射色 No.200 ミントグリーン

※一般色は艶有りタイプと艶消しタイプがあります。  
※一般色は特注色対応可能。

使用可能時間	5 ~ 15℃	8 時間
	15 ~ 25℃	5 時間
	25 ~ 35℃	3 時間
乾燥時間	5 ~ 15℃	16 時間
	15 ~ 25℃	8 時間
	25 ~ 35℃	5 時間
接着可能時間	5 ~ 15℃	7 日間
	15 ~ 25℃	7 日間
	25 ~ 35℃	7 日間
接着可能時間を越えた場合の処理		コスミック・プライマー E を塗布します。

フッ素スーパートップ・ゼロ 弱溶剤系 F☆☆☆☆ NUK-F12707

旧名称: コスミック・フッ素ゼロトップ  
概要: 2成分形フッ素樹脂トップコート  
入目: 10kg/セット (主剤: 4kg 硬化剤: 6kg)  
塗布量: 0.2kg/m<sup>2</sup>



色バリエーション	
一般色 (受注生産品)	No.12 グレー
	No.70 ライトグレー
	No.44 SP グリーン
	No.15 グリーン
	No.17 タンブラウン
	No.96 ブラウン
高反射色 (受注生産品)	No.97 ライトブラウン
	高反射色 No.100 ライトグレー
	高反射色 No.200 ミントグリーン

※一般色は艶有りタイプのみがあります。  
※一般色は特注色対応可能。

使用可能時間	5 ~ 15℃	8 時間
	15 ~ 25℃	5 時間
	25 ~ 35℃	3 時間
乾燥時間	5 ~ 15℃	16 時間
	15 ~ 25℃	8 時間
	25 ~ 35℃	5 時間
接着可能時間	5 ~ 15℃	7 日間
	15 ~ 25℃	7 日間
	25 ~ 35℃	7 日間
接着可能時間を越えた場合の処理		コスミック・プライマー E を塗布します。

ACトップアーク 水系 F☆☆☆☆申請中

概要: 2成分形アクリルウレタン樹脂トップコート  
入目: 主剤 1kg/缶 硬化剤 10kg/缶  
塗布量: 0.3kg (0.15kg×2回塗り) / m<sup>2</sup>



色バリエーション	
一般色 (受注生産品)	グレー
	グリーン
高反射色 (受注生産品)	高反射色 No.100 ライトグレー
	高反射色 No.200 ミントグリーン

※一般色は艶有りタイプのみです。粗面仕上材を添加することで、艶消し調仕上になります。添加量は、ACトップアーク1セットに対し1袋(0.5kg)です。

使用可能時間	5 ~ 15℃	7 時間
	15 ~ 25℃	5 時間
	25 ~ 35℃	3 時間
乾燥時間	5 ~ 15℃	4 時間
	15 ~ 25℃	2 時間
	25 ~ 35℃	1 時間
接着可能時間	5 ~ 15℃	7 日間
	15 ~ 25℃	7 日間
	25 ~ 35℃	7 日間
接着可能時間を越えた場合の処理		コスミック・プライマー E を塗布します。

HGコート 水系 F☆☆☆☆ NUK-F06070

旧名称: コスミック・MKコート  
概要: 1成分形無機質調アクリルシリコン樹脂  
トップコート厚塗り高耐久保護仕上げ  
入目: 20kg/缶

塗布量: [平場] コスミック・プライマー-500  
0.15kg/珪砂 0.8kg/  
コスミック・MKコート  
1.2kg (2回塗り)  
[立上り] コスミック・プライマー-500  
0.15kg/  
コスミック・MKコート  
1.0kg (2回塗り)

色バリエーション	
一般色 (常備品)	シルバーグレー
	グリーン
一般色 (受注生産品)	レッド
高反射色 (受注生産品)	高反射色 No.100 ライトグレー
	高反射色 No.200 ミントグリーン

使用可能時間	5 ~ 15℃	制限なし
	15 ~ 25℃	制限なし
	25 ~ 35℃	制限なし
乾燥時間	5 ~ 15℃	3 時間
	15 ~ 25℃	2 時間
	25 ~ 35℃	1 時間
接着可能時間	5 ~ 15℃	-
	15 ~ 25℃	-
	25 ~ 35℃	-
接着可能時間を越えた場合の処理		リコート可能



HGコート用プライマー W-1 溶剤系 F☆☆☆☆ NUK-F06076

旧名称: コスミック・プライマー-500  
概要: 2成分形エポキシ樹脂プライマー  
用途: HGコート用プライマー  
入目: 20kg/セット  
(主剤: 10kg 硬化剤: 10kg)  
塗布量: 0.15kg/m<sup>2</sup>



## トップコート関連製品

適用トップコート	製品名(入目)	粒径(平均粒子径)	仕上材の添加量	塗工方法
DSトップ・ゼロ ASトップ・ゼロ フッ素スーパートップ・ゼロ SQトップ・ゼロ ACトップアクア	粗面仕上材 (0.5kg/袋/箱)	30～300 $\mu$ m	トップコート1セットに対して 粗面仕上材1袋 <フッ素スーパートップ・ゼロの場合> トップコートに対して重量比約3%	ローラー
	エストップ#20 <sup>®</sup> (1kg/袋)	0.2mm	トップコートに対して重量比約2%	ローラー
	エストップ#40 <sup>®</sup> (1kg/袋)	0.4mm	トップコートに対して重量比約2%	リシンガン (吹付け)

※ ACトップアクアでの使用は不可

### 〈トップコートの仕上りについて〉

- ・トップコートを小分けする場合は、必ずプレミキシングを行ってください。
- ・既設防水が外断熱工法の場合は熱による影響を受け通常より劣化が助長されるため、高反射系のトップコートを選定してください。
- ・高反射系のトップコートは太陽光を効率よく反射させるため、ルーバルコニーなどの居室付近での塗布は避けてください。
- ・粗面仕上げにする場合は「粗面仕上材」「エストップ#20」「エストップ#40」のいずれかを添加してください。ただしいずれも防滑性能を保証するのではなく、降雨後などで水が防水層表面にある場合には滑ることがありますのでご注意ください。
- ・粗面仕上げまたは無機質調仕上げのトップコートは表面に微細な凹凸ができるためホコリが滞留しやすくなります。
- ・現場施工の特性上トップコートの仕上りは必ずしも均一になりません。
- ・各種トップコートの艶消しタイプは製品特性や施工方法の影響により艶に差が生じる場合があります。
- ・各種トップコートの「艶有り」「艶消し」は当社独自の呼称です。仕上りに特段のご要望がある場合は事前にご相談ください。

## 高反射トップコート

ウレタン塗膜防水材を保護するトップコートに遮熱性能を有する高反射色(日射反射率50%以上)を用いることで屋上などの防水施工面の蓄熱を抑えるとともに、防水層の耐久性向上が実現できます。

多様なニーズにこたえるため、様々なタイプのトップコートに高反射色をラインナップしています。

※ 下記高反射色はすべて受注生産となります。

※ 寒冷地は専用の溶剤系トップコートになりますので、別途お問い合わせください。

### 環境対応

#### DSトップ・ゼロ

弱溶剤系のアクリルウレタン樹脂トップコートです。

#### ASトップ・ゼロ

高耐久なアクリルシリコン樹脂トップコート(弱溶剤系)です。低汚染性を有しており、遮熱性能を長期的に維持できます。

#### フッ素スーパートップ・ゼロ

耐候性に優れたフッ素樹脂トップコート(弱溶剤系)です。高耐候性を有し、遮熱性能を長期的に持続できます。

#### ACトップアクア

水系のアクリルウレタン樹脂トップコートです。

#### SQトップ・ゼロ No.100ライトグレー、No.200ミントグリーンのみ対応

速乾性があり高耐久なアクリルウレタン樹脂トップコートで、低汚染性を有しており、遮熱性能を長期的に維持できます。

### 〈共通色見本〉



・高反射色は、日塗工色見本帳等の色票番号に合わせた特注色対応はできません。 ※高反射色の特注色対応は、No.17タンブラウン、No.96ブラウン、No.97ライトブラウンのみ調色可能です。

### 環境対応(緑帯)

#### HGコート(厚塗りタイプ)

高耐久な無機質調アクリルシリコン樹脂(水系)で、飛び火や飛来物からウレタン塗膜防水層を守ります。

※ HGコートはウレタン塗膜防水との接着には専用のエポキシ樹脂プライマー W-1が必要となります。



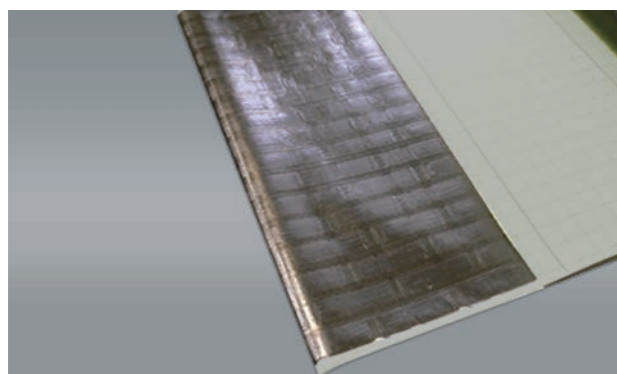
印刷のため、多少現物と色目が異なる場合があります。決定の際は各トップコートの色見本をご参照ください。

高反射色はすべて受注生産となります。受注生産色及び特注色の納期は、ご注文後約1週間となります。

## 通気緩衝シート

### CA マット G

通気緩衝シート、機械的固定用シートのどちらにも対応できる全く新しいタイプの複合防水用下張りシートです。表層の特殊フィルムとベースとなる改質アスファルト層には十分な防水性能があり、降雨にも影響を受けにくく、施工中の雨養生が大幅に簡便化しました。



概要：通気緩衝工法用自着層付改質アスファルトシート  
厚み：接着部 1.5mm 非接着部 1.0mm  
荷姿：幅 1.04m×長さ 15.7m (約19kg)

### 特長

#### ①ウレタン塗膜防水工法の性能アップ

CA マット Gは、シート構成材に改質アスファルトを採用し、単独でも十分な防水性能を持たせました。各種ウレタン塗膜防水材との組み合わせにより、複合防水工法としてウレタン塗膜防水工法の性能を飛躍的に向上させることが可能です。

#### ②優れた下地追従性

CA マット Gは、表層のガラス補強層により優れた寸法安定性を発揮します。ベースとなる改質アスファルト層との組み合わせにより優れた下地追従性を実現します。

#### ③通気システムによるフクレ緩和

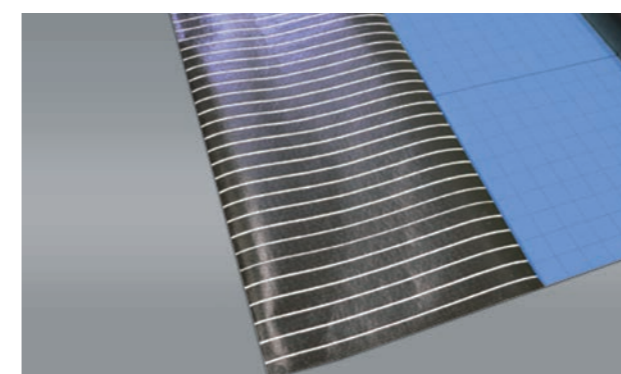
CA マット Gは裏面自着層をストライプ状にコーティングしてあります。防水下地から発生する水蒸気は、シート内を通過して脱気筒から排出される為、フクレにくい構造となっています。

#### ④あらゆる下地に対応可能です

裏面にコーティングした自着層は、各種プライマーとの組み合わせによりあらゆる防水下地に対応可能です。また、既存下地の接着強度、耐久性の低下が見られる場合は、アンカーによる機械的固定工法として優れた性能を発揮します。通気緩衝工法、機械的固定工法として、各種塗膜防水、シート防水、FRP防水等の既存下地も撤去不要です。

### CA マット SB / CA マット SB 機械固定用

ポリエステル不織布と粘着プチルから構成される通気緩衝工法専用シートです。表層の特殊フィルムは十分な撥水効果があり、施工中の降雨の影響を受けにくくなります。



概要：通気緩衝工法用自着層付粘着プチルゴムシート  
厚み：[CA マット SB] 接着部 1.05mm 非接着部 0.7mm  
[CA マット SB 機械固定用] 接着部 1.2mm 非接着部 0.87mm  
荷姿：幅 1.0m×長さ 15m (約13kg)

### 特長

#### ①優れた「通気」「緩衝」性能

CA マット SBは、裏面のストライプ状の粘着プチル層とポリエステル不織布の複合通気システムにより優れた通気性能を有します。防水下地から発生する蒸気の拡散、脱気を円滑に行う為、フクレにくい構造となっています。また、寸法安定性に富んだガラスクロス補強層と柔軟な不織布との組み合わせにより優れた下地追従性（緩衝性能）を発揮します。

#### ②各種防水下地への施工が可能です

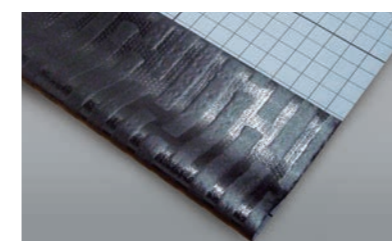
裏面のストライプ粘着プチル自着層は、各種プライマーとの組み合わせにより、各種防水下地への施工が可能です。また、柔軟な不織布により、なじみ良く下地面に接着します。

#### ③優れた施工性

ポリエステル不織布をベースにしている為、軽量で運搬が容易に行えます。また、表層の特殊フィルムは十分な撥水効果があり、施工中の降雨にも影響を受けにくく、施工効率が大幅にアップしました。

### 自着シート

改質アスファルト製の通気緩衝工法専用シートです。

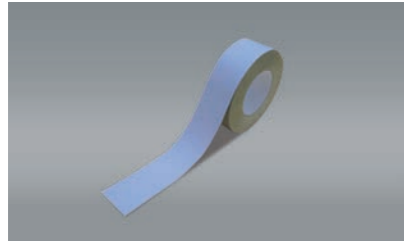


概要：通気緩衝工法用自着層付改質アスファルトシート  
厚み：接着部 1.8mm 非接着部 1.1mm  
荷姿：幅 1.0m×長さ 15m (約23kg)

テープ

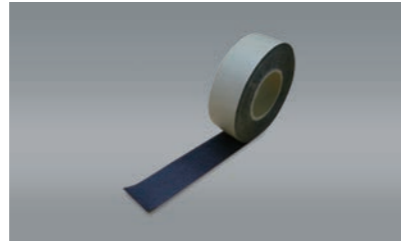
CM ジョイントテープ

概要：CA マットG ジョイント用  
材質：ポリエステル（ウレタンコーティング）  
荷姿：幅50mm×長さ50m／巻



CA ジョイントテープ

概要：CA マットG ジョイント用  
材質：ブチルゴム  
荷姿：幅50mm×長さ25m／巻



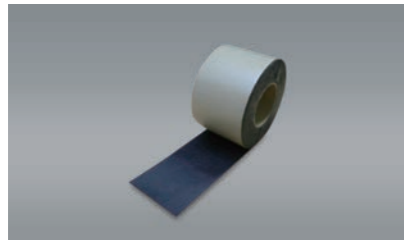
ジョイントテープTM

概要：自着シートジョイント用  
材質：PETフィルム付ガラスメッシュ  
荷姿：幅100mm×長さ50m／巻



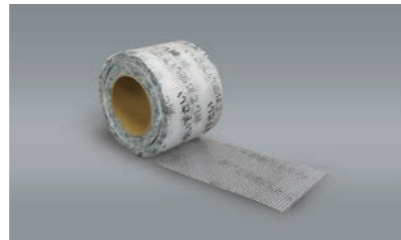
CA 端末テープ

概要：シート端末用、金属部絶縁用  
材質：ブチルゴム  
荷姿：幅100mm×長さ25m／巻



DF メッシュテープ

概要：シート端末用、各種補強用  
材質：ガラスメッシュ  
荷姿：幅100mm×長さ50m／巻



■通気緩衝シートへの適合一覧

○：適用 ー：適用不可

テープ	CA マットG		CA マットSB CA マットSB 機械固定用		自着シート	
	ジョイント (長手・短手)	シート端末	ジョイント (長手・短手)	シート端末	ジョイント (長手・短手)	シート端末
CM ジョイントテープ	○	ー	ー	ー	ー	ー
CA ジョイントテープ	○	ー	ー	ー	ー	ー
ジョイントテープTM	ー	ー	○	ー	○	ー
CA 端末テープ※	ー	○	ー	○	ー	ー
DF メッシュテープ	ー	○	ー	○	ー	○

※ランスロックキャントN及びTルーフプレートA型用

メッシュ・クロス（補強布）／金物／その他

LSメッシュ

概要：ウレタン塗膜防水材用補強布  
材質：ガラス繊維  
荷姿：幅1.04m×長さ100m（約6kg）



LSメッシュ・ソフト

概要：ウレタン塗膜防水材用補強布  
材質：ポリエステル繊維  
荷姿：幅1.02m×長さ50m（約2.8kg）



CM チェッカークロス

概要：ウレタン塗膜防水材用補強布  
材質：ポリエステル繊維  
荷姿：幅1.02m×長さ50m（約4kg）



Tルーフアンカー

概要：機械的固定工法用アンカーピン  
材質：ステンレス  
荷姿：300本／箱  
寸法：40mm 70mm  
穿孔径：6.4～6.5mm  
アンカー埋め込み深さ：24mm以上



ハードエッジドライブHDF

概要：機械的固定工法用ネジ  
寸法：65本／パック（45mm） 45本／パック（60mm）  
40本／パック（75mm） 25本／パック（90mm）  
23本／パック（100mm）  
100本／箱（120mm） 100本／箱（150mm）  
100本／箱（180mm）  
穿孔径：5.3mm  
アンカー埋め込み深さ：40mm以上



※プラグは必要ありません。

Tルーフワッシャー

概要：ハードエッジドライブHDF用ワッシャー  
荷姿：300枚／袋  
寸法：径30mm



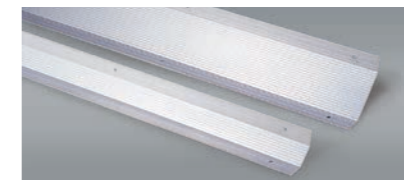
Tルーフスリーブ

概要：固定用金物  
材質：アルミニウム  
荷姿：300個  
寸法：長さ 5mm・20mm・25mm・30mm・35mm・40mm  
外径 10mm  
内径 8mm



ランスロックキャントN

概要：通気緩衝工法用・機械的固定工法用  
材質：アルミニウム  
寸法：厚さ1.3mm 長さ2.0m  
幅30×40×30mm  
30×100×30mm  
固定用アンカー穴：両端から50mmのところ  
に2ヶ所及び380mmピッチで  
4ヶ所／合計6ヶ所×上下2ヶ  
所 径6.5mm



TルーフプレートA型

概要：機械的固定工法用シート端末補強金物  
材質：アルミニウム  
寸法：厚さ3.3mm 長さ2.0m 幅30mm  
固定用アンカー穴：両端から50mmのところ  
に2ヶ所及び380mmピッチで4  
ヶ所／合計6ヶ所 径6.5mm



アルミサスアンカー

概要：ランスロックキャントN、  
TルーフプレートA型用固定アンカーピン  
荷姿：100本／箱  
寸法：26mm・40mm・70mm  
穿孔径：5.4mm  
アンカー埋め込み深さ：20mm以上



キレールテープ

概要：バラベットアゴ部用  
粘着層付水切りテープ  
材質：ストーンペーパー  
荷姿：幅55mm×30m／巻



## シーリング材

1成分形ポリウレタン系シーリング材 速乾タイプ

### シーカフレックス®11FC Quick

入 目：カートリッジ320ml×10本／箱  
(2箱PP掛け)



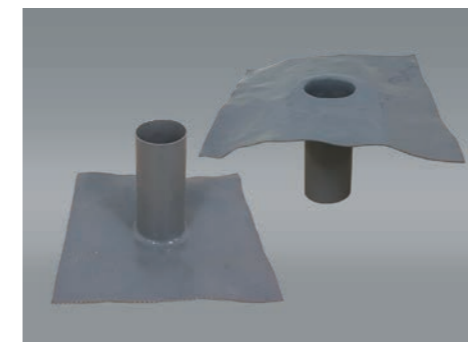
速いタックフリータイムを有します。(40分 / 23℃)  
通気緩衝シート端部処理、雨仕舞、防水下地処理、  
クラック補修、ドレン廻り、コーナー目地に適用できます。

## 改修ドレン

### LF改修ドレンU (非鉛製)

- 改修用二重ドレンです。鉛を使用していません。鉛の代わりに伸縮自在のアルミエキスバンドメタルをウレタンゴムで包んだシート素材を使用しています。環境に優しい新しい改修用ドレンです。
- ウレタンゴムの中にアルミエキスバンドメタルを入れることで、鉛と同様の形状保持性を確保しています。重さは改修ドレンN(鉛製)の30%程度で約800gと非常に軽く、取り扱いが容易です。
- 優れた接着性：ウレタンゴム製の為、ウレタン防水層と優れた接着性があり、一体化します。
- 改修ドレンNよりも柔らかい：ウレタンゴム+エキスバンドメタルの組み合わせで出来ているシート部は、鉛よりも下地に追従しやすく、ハンマーを使用しなくても転圧ローラーで下地に馴染みます。
- ヨコ型ジャバラホースの先端にはVカットが施してあり、ホースが縦樋に入りやすくなっています。

#### LF改修ドレンU タテ型



#### LF改修ドレンU ヨコ型



#### 構成素材



品名	外径 (mm)	内径 (mm)	筒長さ (mm)	ツバ部 [ウレタンシート] (mm)
タテ型 40φ用	φ35	φ30	180	300×300
タテ型 50φ用	φ49	φ44		
タテ型 65φ用	φ64	φ59		
タテ型 75φ用	φ74	φ69		
タテ型 90φ用	φ89	φ84		
タテ型 100φ用	φ99	φ94		
タテ型 125φ用	φ120	φ115		
タテ型 130φ用	φ129	φ124		
タテ型 150φ用	φ140	φ135		

品名	外径 (mm)	内径 (mm)	ホース長さ (mm)	ツバ部 [ウレタンシート] (mm)
ヨコ型 40φ用	φ39.8	φ29	400	300×300
ヨコ型 50φ用	φ45.9	φ35		
ヨコ型 60φ用	φ53.5	φ41		
ヨコ型 70φ用	φ65	φ52	500	400×400
ヨコ型 80φ用	φ72.6	φ61		
ヨコ型 90φ用	φ85.8	φ74		
ヨコ型 100φ用	φ98.6	φ86		
ヨコ型 120φ用	φ112	φ100		
ヨコ型 130φ用	φ125.3	φ113		
ヨコ型 140φ用	φ137.2	φ126		

材 質 (シート部) |  
アルミエキスバンドメタル入り  
ウレタンゴムシート  
材 質 (パイプ部) |  
タテ型 = ウレタンゴム  
ヨコ型 = 塩ビ製ジャバラホース

## LF改修ドレン用ドレンキャップ

### LFドレンキャップ タテ型

タテ型 (大)

タテ型 (中)

タテ型 (小)



商品種別	適用配管	サイズ (mm)	入目
LFドレンキャップ タテ型(大)	60φ～140φ配管	190φ×155	2ヶ入り
LFドレンキャップ タテ型(中)	50φ～100φ配管	130φ×125	2ヶ入り
LFドレンキャップ タテ型(小)	40φ～80φ配管	105φ×35	2ヶ入り

材質 | アルミダイキャスト  
色調 | ブラック/ライトグレー

### LFドレンキャップ ヨコ型

ヨコ型 (中)

ヨコ型 (小)



商品種別	適用配管	サイズ (mm)	入目
LFドレンキャップ ヨコ型(中)	60φ～140φ配管	150×136	2ヶ入り
LFドレンキャップ ヨコ型(小)	40φ～80φ配管	110×91	2ヶ入り

材質 | アルミダイキャスト  
色調 | ブラック/ライトグレー

### ドレンキャップ 横引用

横引用 (大)



商品種別	適用配管	サイズ (mm)	入目
ドレンキャップ 横引用(大)	50φ～140φ配管	270×196	1ヶ入り

材質 | ステンレス (大)  
色調 | シルバー(大)

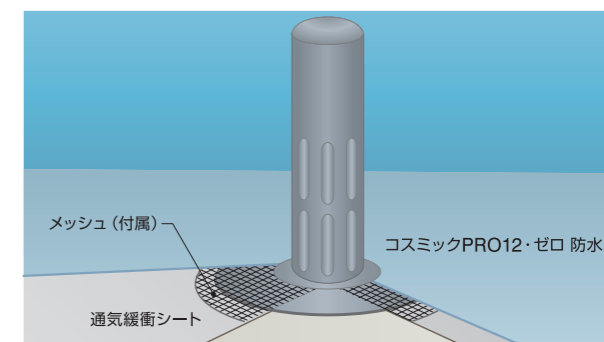
## 脱気装置

### ステンレスベントN



ステンレス製の床面設置用脱気装置。  
錆びにくいステンレスで構成されているため耐久性に優れています。

設置割合 |  
概要: ステンレス製脱気装置 床面設置用  
改修: 100㎡に1箇所以上  
新築: 50㎡に1箇所以上

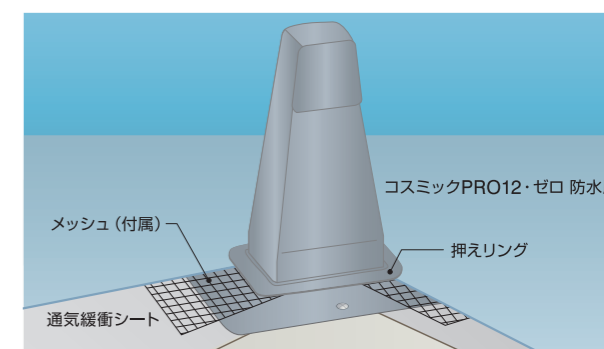


### DDベントLA型

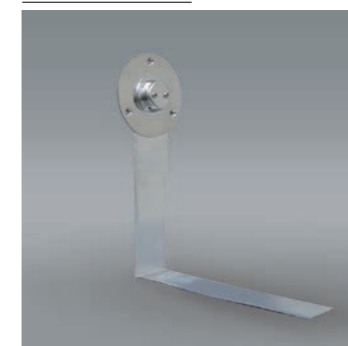


アルミダイキャスト製の床面設置用脱気装置。  
最も採用の多い脱気装置のスタンダードです。  
※新築時、「自着シート」との組合せ不可

設置割合 |  
概要: アルミダイキャスト製 脱気装置 床面設置用  
改修: 100㎡に1箇所以上  
新築: 50㎡に1箇所以上

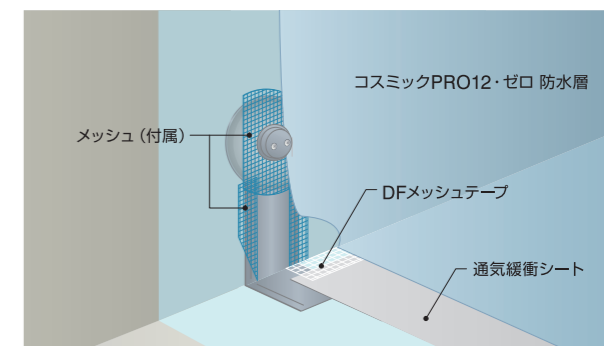


### ウォールベント



ステンレス製の入隅設置用脱気装置。  
屋上使用上床面への脱気装置の設置が障害となる場合に効果的です。

設置割合 | 50㎡に1箇所以上  
・設置する立上り (アゴがある場合はアゴ下)は、150mm以上の高さが必要です。  
概要: ステンレス製脱気装置 立上り設置用



## 下地処理材

### ダブルテックス NEO 下地調整系 エポキシ系ポリマーセメント

- エポキシ系だから最も高い接着力を保持し、多くの下地に対応できます。
- 鉄部の防錆処理にも使用でき、鉄部と取り合う防水面の下地処理にも使えます。
- 優れた吸水防止効果で、仮防水材としても使用可能です。



入 目 | 20kg/缶  
(主材14kg/袋: A液5kg/  
袋: B液1kg/袋)

標準使用工具	ローラー、刷毛、左官ゴテ
塗 厚	ノロビキ～1.0mm
調合方法	硬化液A 5.0kg+硬化液B 1.0kg +主材14kg+水0～0.8ℓ 調合した材料は1時間以内で使用してください。

### Dワン・カチオン 下地調整系 1材型カチオンフィラー (コテ・ローラー兼用)

- セメント系粉体とカチオン系粉末樹脂を予め適量混合した1材型で、各種の下地に対して安定した接着力を発揮します。
- 現場で使いやすい1材型。ノロビキから2.0mm程度まで対応可能です。

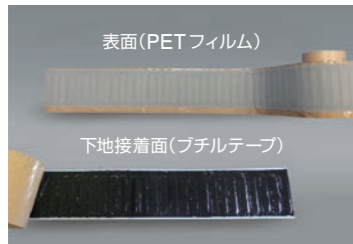


入 目 | 20kg/袋

標準使用工具	ローラー、刷毛、左官ゴテ
塗 厚	ノロビキ～2.0mm
調合方法	コテ塗り: 主材20kg+水5～6ℓ 刷毛・ローラー塗り: 主材20kg+水8～9ℓ 調合した材料は1時間以内で使用してください。

### MGテープ 伸縮目地処理用テープ

- 既存伸縮目地部のキャップを外し、プライマー塗布後「MGテープ」を張るだけで目地処理が完了します
- テープに組み込まれた金属板によって、伸縮目地を平滑にします
- 裏面の自着層が伸縮目地の動きを緩衝し平滑性を維持します
- テープの裁断は金属板の組み込まれていない任意の部分で、容易に裁断できます
- 通気緩衝シートとの接着が良好です



寸 法 | 幅100mm×長さ15m/巻

規 格	
材 質	粘着付きPETフィルム (PET、アクリル接着剤100mm) 自着層(ブチルゴム系粘着材90mm) 金属片(ガルバニウム鋼板70×10×0.4mm) 離型紙(110mm)
厚 み	約1mm
重 量	約3kg/巻
色	グレー

### MGタイト ガラス発泡骨材入りポリマーセメントモルタル

MGタイトは、樹脂モルタルにガラス発泡骨材を配合した通気緩衝工法専用の目地処理材です。押えコンクリート層の熱膨張などにより目地幅が狭められると、目地材に混入された骨材が砕け、目地方向に集中した応力を吸収します。このため、新規防水層施工後に起こる目地部での盛り上がりや防止します。  
※20mm以上の目地深さが必要です。 ※密着工法には使用できません。



入 目 | A剤4kg/ポリ容器  
B材10kg/袋  
C材20kg/袋

MGタイト配合表		1セット当たりの施工目安	
材料	配合比	充填サイズ 施工	長さ
MGタイトA剤	2	20mm×20mm	約76m
MGタイトB材	5	20mm×30mm	約50m
MGタイトC材	10	30mm×30mm	約33m
水	2		

### 下地処理適応表

【記号の見方】 ○適用可 ×適用不可 △条件により適用

下地	下地処理材	ダブルテックス NEO	Dワン・カチオン
下地	アスファルトコンクリート	△	△
	モルタル	○	○
	コンクリート	○	○
	レンガ	○	○
	ALC	○	○
	プレキャストコンクリート (PCa)	○	○
	スレート	○	○
	大理石	×	×
	花崗岩	○	○
	鉄	○	×
	アルミニウム	×	×
	ステンレス	△	×
	銅	×	×
	鉛	×	×
	エポキシ	○	×
	ウレタン	○	×
	FRP	△	×
	アクリルゴム	○	×
	塩化ビニルシート	×	×
	ブチルゴム	×	×
	加硫ゴム	×	×
	フッ素	×	×
	陶器質タイル	○	○
磁器質タイル	○	×	
サイディングボード	○	○	
珪酸カルシウム板	○	×	
アスファルト	○	×	
ガラス	○	×	

※下地素材の状況により接着強度が変わる場合があります。

# 製品一覧

製品分類	製品名	入目 (内訳)	製品種別	備考
防水材	コスミック PRO12・ゼロ	27kg/セット (主剤 9kg・硬化剤 18kg) 18kg/セット (主剤 6kg・硬化剤 12kg)	特定化学物質無配合 2成分形ウレタン塗膜防水材	カラーウレタン 配合比 1:2 (重量比) JIS A 6021
	コスミック PRO・ゼロ立上り用	18kg/セット (主剤 6kg・硬化剤 12kg)	特定化学物質無配合 2成分形ウレタン塗膜防水材	カラーウレタン 配合比 1:2 (重量比) JIS A 6021
	コスミック PRO・ゼロ 中粘度タイプ	18kg/セット (主剤 6kg・硬化剤 12kg)	特定化学物質無配合 2成分形ウレタン塗膜防水材	カラーウレタン 配合比 1:2 (重量比) JIS A 6021
希釈剤	US 環境キヤク剤	12kg/缶	希釈剤	添加上限: 5%
硬化促進剤	ソクシン剤 (環境配慮対応タイプ)	1kg/缶、17kg/缶	硬化促進剤	添加上限: 0.6%
プライマー	コスミック・プライマー P <sup>*1</sup>	16kg/缶	1成分形ウレタン樹脂 (溶剤系)	コンクリート・モルタル下地用プライマー
	コスミック・プライマー EP <sup>*1</sup>	12kg/セット (主剤 6kg・硬化剤 6kg)	2成分形エポキシ樹脂 (溶剤系)	コンクリート・モルタル及び 金属下地用プライマー
	コスミック・プライマー U	16kg/缶	1成分形ウレタン樹脂 (弱溶剤系 <sup>*2</sup> )	コンクリート・モルタル下地用プライマー
	コスミック・エコプライマー	16kg/缶 (主剤 8kg・硬化剤 8kg)	2成分形エポキシ樹脂 (水系)	コンクリート・モルタル及び ゴムシート下地用プライマー
	コスミック・プライマー 200 <sup>*1</sup>	12kg/セット (主剤 6kg・硬化剤 6kg)	2成分形ウレタン樹脂 (溶剤系)	ウレタン下地用プライマー
	コスミック・プライマー 300	15kg/缶	1成分形ウレタン樹脂 (溶剤系)	ウレタン下地用プライマー
	コスミック・プライマー E	14kg/缶	1成分形ウレタン樹脂 (弱溶剤系 <sup>*2</sup> )	ウレタン及び 塩化ビニル樹脂下地用プライマー
	FU プライマー <sup>*1</sup>	8kg/セット (主剤 4kg・硬化剤 4kg)	2成分形ウレタン ポリエステル樹脂 (溶剤系)	ポリエステル樹脂トップコート 下地用プライマー
	W-1 (旧名称: コスミック・プライマー 500 <sup>*1</sup> )	20kg/セット (主剤 10kg・硬化剤 10kg)	2成分形エポキシ樹脂 (溶剤系)	HG コート用プライマー
	ダイナベース <sup>*1</sup>	20kg/缶	アスファルト活性剤 (溶剤系)	砂付アスファルト下地活性剤
トップコート	DS トップ・ゼロ	15kg/セット	2成分形 アクリルウレタン樹脂 トップコート (弱溶剤系 <sup>*2</sup> )	《一般色 (艶有りタイプ、艶消しタイプ)》 No.12 グレー、No.70 ライトグレー、 No.44 SP グリーン、No.15 グリーン No.17 タンブラウン、No.96 ブラウン No.97 ライトブラウン 《高反射色》 高反射色 No.100 ライトグレー、 高反射色 No.200 ミントグリーン
	SQ トップ・ゼロ	15kg/セット (主剤 6kg・硬化剤 9kg)	2成分形 アクリルウレタン樹脂 速乾タイプ (弱溶剤系 <sup>*2</sup> )	《一般色 (艶有りタイプ、艶消しタイプ)》 No.12 グレー、No.70 ライトグレー、 No.44 SP グリーン 《高反射色》 高反射色 No.100 ライトグレー、 高反射色 No.200 ミントグリーン
	AS トップ・ゼロ (旧名称: コスミック・ゼロトップ AS)	15kg/セット (主剤 6kg・硬化剤 9kg)	2成分形 アクリルシリコン樹脂 (弱溶剤系 <sup>*2</sup> )	《一般色 (艶有りタイプ、艶消しタイプ)》 No.12 グレー、No.70 ライトグレー、 No.44 SP グリーン、 No.15 グリーン、 No.17 タンブラウン、 No.96 ブラウン、 No.97 ライトブラウン 《高反射色》 高反射色 No.100 ライトグレー、 高反射色 No.200 ミントグリーン
	フッ素スーパートップ・ゼロ (旧名称: コスミック・ フッ素ゼロトップ)	10kg/セット (主剤 4kg・硬化剤 6kg)	2成分形フッ素樹脂 (弱溶剤系 <sup>*2</sup> )	《一般色 (艶有りタイプ)》 No.12 グレー、No.70 ライトグレー、 No.44 SP グリーン、 No.15 グリーン、 No.17 タンブラウン、 No.96 ブラウン、 No.97 ライトブラウン 《高反射色》 高反射色 No.100 ライトグレー、 高反射色 No.200 ミントグリーン
	AC トップアクア	11kg/セット	2成分形 アクリルウレタン樹脂 (水系)	《一般色 (艶有りタイプ)》 グレー、グリーン 《高反射色》 高反射色 No.100 ライトグレー、 高反射色 No.200 ミントグリーン

製品分類	製品名	入目 (内訳)	製品種別	備考
トップコート	HG コート (旧名称: コスミック・ MK コート) <sup>*1</sup>	20kg/缶	1成分形無機質調 アクリルシリコン樹脂 (水系)	《一般色》 シルバーグレー、グリーン、レッド 《高反射色》 高反射色 No.100 ライトグレー、 高反射色 No.200 ミントグリーン
	粗面仕上材	500g/袋	中空ガラスビーズ	粗面仕上げ用骨材
	エストップ# 20	1kg/袋	粗面仕上げ用 ウレタンチップ	粗面仕上げ用チップ
	エストップ# 40	1kg/袋	粗面仕上げ用 ウレタンチップ	粗面仕上げ用チップ
通気緩衝シート	CA マット G	幅 1.04m × 長さ 15.7m / 巻	改質アスファルトシート	通気緩衝工法用自着層付シート
	CA マット SB	幅 1.0m × 長さ 15m / 巻	粘着プチルゴムシート	通気緩衝工法用自着層付シート
	CA マット SB 機械固定用	幅 1.0m × 長さ 15m / 巻	粘着プチルゴムシート	通気緩衝工法用自着層付シート
	自着シート	幅 1.0m × 長さ 15m / 巻	改質アスファルトシート	通気緩衝工法用自着層付シート
	CM 通気クロス	幅 1.0m × 長さ 50m / 巻	アルミ箔ラミネートポリエステル	通気緩衝工法用穴あきクロス
テープ	CM ジョイントテープ	幅 50mm × 長さ 50m / 巻	ポリエステル (ウレタンコーティング)	CA マット G ジョイント用テープ
	CA ジョイントテープ	幅 50mm × 長さ 25m / 巻	プチルゴム	CA マット G ジョイント用テープ
	ジョイントテープ TM	幅 100mm × 長さ 50m / 巻	PET フィルムガラス繊維	自着シートジョイント用テープ
	CA 端末テープ	幅 100mm × 長さ 25m / 巻	プチルゴム	シート端末用、金属部絶縁用テープ
	DF メッシュテープ	幅 100mm × 長さ 50m / 巻	ガラス繊維	シート端末用、各種補強用テープ
	キレールテープ	幅 55mm × 長さ 30m / 巻	ストーンペーパー	水切りテープ
	LS メッシュ	幅 1.04m × 長さ 100m / 巻	ガラス繊維	ウレタン塗膜防水材用補強布
	LS メッシュ・ソフト	幅 1.02m × 長さ 50m / 巻	ポリエステル繊維	ウレタン塗膜防水材用補強布
	CM チェッカークロス	幅 1.02m × 長さ 50m / 巻	ポリエステル繊維	ウレタン塗膜防水材用補強布
	T ルーフアンカー	300本/箱	ステンレス製	機械的固定工法用アンカーピン (40mm / 70mm)
補強材 / 金物 / その他	ハードエッジドライブ HDF	65本/パック(45mm) 45本/パック(60mm) 40本/パック(75mm) 25本/パック(90mm) 23本/パック (100mm) 100本/箱 (120mm) 100本/箱 (150mm) 100本/箱 (180mm)	スチール製	機械的固定工法用ネジ
	T ルーフワッシャー	300枚/袋	アルミニウム製	ハードエッジ HDF 用ワッシャー
	T ルーフスリーブ	300個	アルミニウム製	固定用金物
	ランスロックキャント N	幅 30 × 40 × 30mm、 幅 30 × 100 × 30mm 長さ 2m / 本	アルミニウム製	機械的固定工法用シート端末補強金物 (30-40-30mm / 30-100-30mm)
	T ルーフプレート A 型	幅 30mm × 長さ 2m / 本	アルミニウム製	機械的固定工法用シート端末補強金物
	アルミサスアンカー	100本/箱	アルミニウム製	ランスロックキャント N、 T ルーフプレート A 型用固定アンカーピン
シーリング材	シーカフレックス 11FC Quick	320mm × 10本/箱 (2箱 PP 掛け)	1成分形ポリウレタン系シーリング材 速乾タイプ	
脱気装置	ステンレスバント N	2個/箱	ステンレス製	床面設置用脱着式脱気装置
	ウォールバント	5個/箱	ステンレス製 (本体) アルミ製 (プレート)	立上り設置用脱気装置
改修ドレン	LF 改修ドレン U タテ型・ヨコ型	2個/箱	アルミエキスパンドメタル (ゴムコーティング)	非鉛製改修工用ドレン
	LF ドレンキャップ タテ型・ヨコ型	2個/箱	アルミダイキャスト製	LF 改修ドレン用ストレーナキャップ
下地処理材	ダブルテックス NEO	20kg/缶	エポキシ系	防水下地調整用ポリマーセメント
	D ワン・カチオン	20kg/袋	1 材型カチオン系	防水下地調整用カチオンフィラー
目地処理材	MG タイト	34kg/セット	ガラス発泡骨材入り	伸縮目地処理用ポリマーセメントモルタル
	MG テープ	100mm × 15m / 巻	プチルゴム系粘着層付 PET フィルム (ガルバニウム鋼板入り)	伸縮目地処理用テープ

※ 1 エチルベンゼン、メチルイソブチルケトン、スチレン、ジクロロメタンのいずれかが含まれているため屋内で使用する場合特定化学物質障害予防規則の対象となります。  
(HG コートには含まれていませんが、HG コート用プライマー「W-1」にエチルベンゼンが含まれています。)

※ 2 弱溶剤系とは、トルエンやキシレンの他、有機溶剤中毒予防規則の対象物質を配合していないことを言います。